

16

音樂取調成績申報書

東 京 圖 書 館				
冊 號	架 號	函 號	類 部	新 書 門
	五	九		

特 23 478

當 續
表 茲

二 音樂取調ノ命ヲ奉シ敢テ本掛創置ノ局ニ
 ヨリ拮据黽勉古今内外ノ音樂ヲ參查考定ス
 ニ四閱年餘抑音樂ハ古來聖主賢相ノ之ヲ國
 シ化育ニ資シ以テ治道ニ裨補セシハ歴然史
 乘ニ徵スル所ニシテ其關係固ヨリ重且大ナリト謂
 フベシ然リ而シテ之ヲ我教育上ニ施設シ之ヲ我學
 校ニ普及スルノ方法ニ至リテハ事全ク草創ニ屬ス
 ルヲ以テ未ダ其志ヲ盡サズト雖モ幸ニ僚屬諸員ノ
 協心補導ニ依リテ今其一端ヲ了スルヲ得タリ恭シ
 ク書シテ以テ閣下ニ呈ス冀クハ電閱ヲ賜ハラント
 ヲ頓首再拜

明治十七年二月

音樂取調掛長

文部少書記官伊澤修二

文部卿大木喬任殿

音樂取調成績申報書目次

○ 創置處務概畧

內外音律ノ異同研究ノ事

本邦音階ノ事

希臘樂律ノ事

附希臘古樂「アポロ」ノ讚歌發見ノ事

音樂沿革大綱

音樂ト教育トノ關係

長短二音階ノ關係

健康上ノ關係

道德上ノ關係

音樂唱歌教則編成ノ事

音樂唱歌傳習ノ事
唱歌集及掛圖編成出版ノ事
音樂書類刊行ノ事
樂器試製改造及模造ノ事
學校用樂器ノ適否研究ノ事
俗曲改良ノ事
明治頌撰定ノ事

目次畢

音樂取調成績申報書

○ 創置處務概畧

本掛ハ明治十二年十月ノ創置ニ係ル此月東京師範學校長伊澤修二音樂取調御用係ニ拜ス同月三十日ヲ以テ文部卿ニ呈出セシ見込書左ノ如シ

明治五年我省始テ學制ヲ全國ニ頒布シ國民教育ノ目途ヲ一變セシヨリ今日ニ至ルマテ何レノ地方ヲ論セス其教則中皆ナ唱歌ヲ以テ普通學科ノ一ニ列スト雖モ實際ニ就テ之ヲ察スレハ未タ一モ行レシノ例アルヲ聞カス是レ豈該科ノ無用ニ屬スルガ故ナランヤ唯其着手ニ當リ種々ノ障礙アルカ故ニ今日マテ之ヲ實行スルヲ得サリシノミ

今其一大障礙ノ由テ來ル所ヲ察スルニ是レ素ト唱
歌ヲ實施スルノ難キニ非スシテ却テ適當ナル音樂
ヲ撰擇スルノ難キニアルモノ、如シ請フ其概論ヲ
左ニ陳述セン
世ノ音樂ノ事ヲ談スル者ノ言ヲ聞クニ其說概テ三
アリ甲說ニ曰ク音樂ハ人情ヲ感發スルノ要具ニシ
テ喜怒哀樂ノ情自ラ其音調ニ顯ル、者ナレハ洋ノ
東西ヲ問ハス人種ノ黃白ヲ論セス苟モ人情ノ同キ
所ハ音樂亦同シテ可ナリ抑西洋ノ音樂ハ希臘ノ哲
人ピサゴラス以來數千年間ノ研究ニヨリテ殆ント
最高點ニ達シタルモノナレハ其精其美素ヨリ東洋
蠻樂ノ及フ所ニ非ス故ニ其良種ヲ擇テ之ヲ我土ニ
移植ス可シ又何ソ不充分ナル東洋樂ヲ培育完成ス

ルノ迂策ヲ求ルヲ要センヤト
乙說ニ曰ク各國皆テ各國ノ言辭アリ風俗アリ文物
アリ是レ其住民ノ性質ト風土ノ情勢トニ因テ自然
ニ産出セシモノナレハ人力ノ能ク之ヲ變易スベキ
ニ非ス且音樂ノ如キハ素ト人情ノ發スル所人心ノ
向フ所ニ從テ興リタルモノナレハ各國皆固有ノ國
樂ヲ保有ス未タ全ク他國ノ音樂ヲ自國ニ移入セシ
ノ例アルヲ聞カス由是觀之我國ニ西洋ノ音樂ヲ全
然移植セントスルハ恰モ我國語ニ代ルニ英語ヲ以
テセントスルカ如ク到底無益ノ論ト云ハサルヲ得
ス故ニ我國固有ノ音樂ヲ培育完成スルニ如カズト
丙說ニ曰ク甲乙ノ二說各其理ナキニ非スト雖モ皆
偏倚ノ極ニ陷ルノ弊ヲ免レヌ故ニ其中ヲ執リ東西

二洋ノ音樂ヲ折衷シ今日我國ニ適スベキモノヲ制定スルヲ務ムベシト
 愚ヲ以テ之ヲ見レハ丙ノ說ク所其當ヲ得タルモノニ似タリト雖モ其實施ノ方法ニ至リテハ難中ノ至難ナル者ト云ハサルヲ得ズ然リト雖モ既ニ丙說ヲ以テ至當ト認ル以上ハ吾人今日ノ知識ト時勢トニ相應セル手段ヲ以テ將來其目的ヲ達スベキ方法ヲ設ケザル可ラズ若シ其難ヲ恐レテ今日之ニ着手セザレハ何レノ日カ其興ルヲ期スベケンヤ
 右ノ如ク東西二洋ノ音樂ヲ折衷シ將來我國樂ヲ興スノ一助タルベキモノヲ造成スルヲ以テ現今ノ要務トナスルハ實際取調フベキ事項大綱三アルベシ
 曰ク東西二洋ノ音樂折衷ニ着手スル事曰ク將來國

樂ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事曰ク諸學校ニ音樂ヲ實施シテ適否ヲ試ル事

第一項 東西二洋ノ音樂ヲ折衷シテ新曲ヲ作ル事

凡ソ物ヲ折衷スルハ二物ノ異ナル點ト同キ點トヲ見出シ其同キハ之ヲ合シ其異ナルハ双方ヨリ漸ク相近ケ遂ニ相和セシムルニ在リ故ニ折衷ノ第一歩ハ先ツ東西二樂ノ異點ト同點トヲ發見スルニ在ルヘシ
 今西洋ノ時様唄ト日本ノ端唄トヲ取り之ヲ比較セハ頗ル異點多クシテ殆ド同點ナキカ如クナルベシ次ニ西洋ノ神歌ト日本ノ琴歌トヲ比較セハ二者異ナラザルニ非ズト雖モ頗ル同趣ノ存スル

ヲ見ルベシ終ニ西洋ノ童謡ト日本ノ童謡トヲ比
 セバ全ク相同キノ想ヲナス是レ他ナシ西洋ノ音
 樂モ日本ノ音樂モ之ヲ組成スル元素ハ毫モ異ナ
 ルニ非ス唯其結合ノ法同ラザルノミ故ニ童謡ノ
 如キ其結合簡短ナルモノニアリテハ變異至テ少
 ケレモ時様唄ノ如キ其結合愈錯綜ナルニ從ヒ其
 變異モ亦愈多キヲ加ルナリ
 右ノ理由ナルヲ以テ着手ノ始ニ當テハ童謡其他
 最モ簡短ナル諸類ヲ集メ西洋ノ童謡ニ比較シ二
 者折衷シテ相當ノ歌曲ヲ作り將來小學生徒ニ授
 ルノ資トスベシ
 前文ノ目的ヲ達スルニハ西洋音樂ニ精キ者及日
 本音樂ニ精キ者等ヲ採用シ彼我異同ノ諸點ヲ考

究シ協議折衷ノ上漸々新曲ヲ作出スルヲ務ム可
 シ

第二項 將來國樂ヲ興スベキ人物ヲ養成スル事
 音樂ヲ學フノ法ニアリ甲ハ音樂ノ理論ヲ學フ者
 ニシテ物理學中ノ一科タリ乙ハ音樂ノ實用ヲ學
 フ者ニシテ美術中ノ一藝ナリ理論ト實用ト兩得
 兼備スベキハ固ヨリ音樂家ノ本分ナリト雖モ限
 リアルノ時間ト才力トヲ以テ限リナキノ學藝ニ
 應ズベカラザルガ故ニ通常ノ音樂家ハ專ラ音樂
 ノ藝ヲ學ヒ理論ハ唯其一斑ヲ窺フノミ
 今若干ノ生徒ヲ養成スルニ當リテハ固ヨリ教養
 ノ完備ヲ冀望スルト雖モ其本末ヲ錯ラザルヲ要
 ス故ニ先ツ音樂ノ藝ヲ學バシムルヲ專務トシ理

論ノ如キハ多年ノ後ニ讓ルベシ

此ノ目的ヲ達スルニハ生徒ノ種類亦之ニ隨テ撰
擇セザルヲ得ズ則其要件概テ左ノ如クナルベシ

第一、學識 普通ノ讀書ニ差支ナキ者

但英文ヲ解スル者ハ最モ善シトス

第二、年齡 十六年以上二十五年以下ノ者

第三、技藝 雅樂又ハ俗曲ヲ習得セシ者

第四、性 男或ハ女

右格ニ合フベキ者大凡二十名ヲ募集シ三年間ノ
見込ヲ以テ之ヲ教養シ西洋音樂及日本音樂ヲ習
得セシメ漸テ以テ國樂ヲ制定スルノ一助ニ供ス
ベシ

第三項 諸學校ニ音樂ヲ實施スル事

第一項ノ手段ニヨリテ新作ノ歌曲ヲ得ルキハ之
ヲ東京師範學校附屬小學及東京女子師範學校附
屬幼稚園并練習小學生徒等ニ實施シテ其適否ヲ
試ミ其佳ナル者ヲ撰ンテ掛圖及ビ謠本ヲ製シ漸
々他ノ諸學校ニ普及スルニ途ヲ求ムベシ

右三項ノ事業ヲ實行スルニ付要スル所ノ人員ハ西
洋音樂教師一人日本音樂ニ通スル者三人日本文學
ニ通スル者一人通辨一人吏員五人ナリ然シテ其費
用ノ概畧ヲ舉レハ一ヶ月ノ費額左ノ如クナルベシ

明治十三年五月廿七日本省ヨリ左ノ通り達セラレ
音樂取調掛之儀當分官立學務局ノ管理ニ候旨曾テ
口達オヨビ置候處右ハ官立學務局ニ屬セズ本省中
單立ノモノト被定候間此段及通牒候尤モ事務上ニ
於テ別ニ相替候儀ハ無之候得共右ニ關スル書類等
其心得ヲ以テ取計可有之此旨申進候也
明治十四年十月音樂取調御用掛伊澤修二音樂取調掛
長ニ任ス
明治十五年一月音樂取調事務大要ヲ制定シ之ヲ上呈
スルヲ左ノ如シ

第一 諸種ノ樂曲取調ノ事

諸種ノ樂曲中特ニ取調ヲ要スルモノハ本邦ノ部ニ在テ雅樂俗樂トシ外國ノ部ニ在テ西洋樂清樂トス俗樂ニ於テハ箏曲、長唄、等ヲ始メ其他各種ニ及ビ西洋樂ニ於テハ古樂、今代樂等皆其取調ヲ要スルモノトス

音律ノ事タル固ヨリ人ノ性情ノ自然ニ出ツルモノナレバ古今ヲ問ハズ東西ヲ論ゼズ殆ド同一ニ歸スベシト雖モ其旋法ニ至リテハ各相異ナル所アリ隨テ得失アルヲ免レザルモノナレバ博ク諸樂ノ根理ヲ研究シ其得失ヲ考查シ其良否ヲ審覈シ以テ彼長ヲ取リ此短ヲ補フノ用ニ供セザル可ラス是レ第一ニ諸種ノ樂曲取調ヲ要スル所以ナリ

樂曲取調ノ方法ハ從來口傳ニ出デ樂譜ナキモノハ之ヲ精究審解シテ其樂譜ヲ作り若シ其譜アルモ各種異様ノ方法ヲ用非タルモノハ之ヲ各國普通ノ樂譜ニ改メ精確明瞭ニ其曲調ヲ記スルヲ務ムベシ

斯ノ如ク諸種ノ樂曲ヲ同一ノ基本ニ歸シ普通ノ樂譜ニヨリテ之ヲ記シ交互相比シテ其得失良否ヲ考查シ以テ取捨ヲ決定スルモノトス
善良ノ樂曲ハ其何類ニ屬スルヲ問ハズ務メテ之ガ和聲ヲ作り其樂曲ハ輯メテ一書トナシ樂譜ト共ニ副圖ニ付シテ永存スベシ

第二 學校唱歌ノ事

學校唱歌ニ就キ要スル所ノ事項ハ樂譜及ビ歌詞ノ

撰定、圖書ノ編輯、樂器ノ練習及ビ唱歌普及ノ方法ト
 ス
 樂譜ハ本邦人若クハ西洋人ノ作ヲ撰用シ歌詞ハ既
 有ノ樂譜ニ從テ作爲スルモノト樂譜ノ撰定ニ先テ
 テ作爲スルモノトノ二種トス
 本邦人ノ作ニ出タル樂譜ハメーソン氏若クハ他
 ノ西洋人ニ托シテ其和聲ヲ作ラシメザル可ラズ
 是レ此和聲ノ事タル頗ル高尚ノ學科ニ屬シ今日
 我音樂家ノ未ダ爲シ能ハザル所ノモノナリ
 既有ノ樂譜ニ從テ歌詞ヲ作ルルハ先其樂譜ヲ解
 剖シテ其旋法口調等ヲ考查シ若シ樂譜中歌作ノ
 法ニ適セザル所アレバ其譜ヲ改メ又歌詞中樂曲
 ノ法ニ適セザル所アレバ其詞ヲ替へ彼我折衷務

メテ歌曲ノ句調ニ合セシムベシ
 樂譜ノ撰定ニ先テ歌作ヲ爲スルハ其句數字數
 等ヲ定メ他日樂譜ヲ作ルニ當リ極メテ唱歌ニ適
 切ナラシムルヲ要スベシ
 圖書ノ編纂ハ唱歌掛圖、唱歌本、及唱歌教授法トス
 唱歌掛圖及唱歌本ハ過般編纂シタルモノ、體裁
 ニ從ヒ逐次編製シテ高等ノ唱歌ニ及ブベシ
 唱歌教授法ハ目今當掛傳習人及師範學校生徒等
 ニ教授スル所ノモノニヨリテ撰定スベシ是レ唱
 歌ハ新設ノ學科ナルヲ以テ其教授法モ新奇ニ屬
 シ容易ニ了解シ難キヲ以テ最モ此類ノ書ノ編輯
 ナ要スル所以ナリ
 學校唱歌ニ用ル所ノ樂器ハ本邦ノ箏、胡弓、西洋ノ

「ヴァイオリン」風琴、洋琴ト定ムベシ
 下等若クハ中等小學ノ唱歌ニハ箏、胡弓、等ヲ以テ
 足レリトスベシ若シ「ヴァイオリン」又ハ風琴アレバ
 最モ善シトス
 上等小學若クハ中學等ニ在リテハ必ず風琴ヲ備
 フルヲ要シ若シ洋琴ヲ備フルヲ得バ最モ善トス
 風琴ハ其振舌ヲ除クノ外總テ本邦職工ニテ製作
 スルヲ得ルニ至リ「ヴァイオリン」モ亦本邦人ニテ製
 作スルモノアレバ決シテ輸入ヲ仰ガズンテ事足
 ルベシ但シ洋琴ニ至リテハ數年ノ後ニ非レバ本
 邦人ニテ製作スルヲ能ハザルベシ
 右ノ方法ニヨレバ諸學校ニ唱歌ヲ施スニ當リテ
 モ樂器ニ於テハ聊差支ナカルベシ

學校唱歌ヲ普及スルハ師範學校生徒ト當掛傳習人
 トニヨリテ其目的ヲ達スベシ
 直轄兩師範學校生徒ニハ入學初年ヨリ唱歌ヲ學
 バシメ傍ラ樂器ヲモ傳習セシムベシ然ルルハ一
 ト通り小學唱歌ヲ教授シ得ベキ者男子ニシテ十
 中ノ五六女子ニシテ十中ノ七八ハ出ヅベシ
 女子師範學校生徒中最モ音樂ノオアル者ヲ撰ビ
 卒業前大凡ソ一ケ年間音樂取調所ニ就キ專ラ音
 樂ヲ修メシムベシ然ルルハ隨分善良ナル音樂教
 師トナルベキ者出ヅベシ
 從來音樂專門ノ者等ニシテ音樂教師タラントナ
 望ム者ハ音樂取調所ニ就キ傳習ヲ受クルヲ許
 スベシ然ルルハ他ノ者ニ比スレバ少許ノ時ヲ以

テ其學科ニ熟シ善長ナル音樂教師トナル者出ツ
ベシ

第三 高等音樂ノ事

凡ソ音樂ノ高等ナルハ管絃樂ニ如クモノナシ而シ
テ高等ノ音樂ハ國民ニ高等ノ思想ヲ感發セシムル
モノナレバ國歌ノ撰定等宜シク之ニ依ルベキモノ
トス今之ヲ分ナテ本邦及西洋管絃樂ノ二種トス
本邦管絃樂ハ特ニ雅樂局ノ設アリテ之ヲ專修ス
ルガ故ニ當掛ニ於テハ特別ノ理由アルノ際ニ非
レバ之ヲ練習スルヲ要セザルベシ
西洋管絃樂ハ傳習ノ日猶淺シト雖モ當掛助教等
ハ既ニ譜面ニヨリテ之ヲ合奏シ得ルノ地位ニ進
ミタレバ歐米諸國ヨリ此類ノ樂譜ヲ購入シ之ニ

ヨリテ進歩ノ方法ヲ研究スベシ又本邦人ノ作曲
ニテモ一旦其和聲ヲ作爲スルモハ皆此類ノ樂器
ヲ以テ合奏シ得ルモノナリ
和聲ノ事タル其理頗ル高尚ニ涉リ本邦人ノ未ダ
曉通セザル所ノモノナリト雖モ——ソソノ氏ノ講
義及諸種ノ著書等ニヨリテ其理ヲ研究シ且樂器
ニヨリテ實際ニ之ヲ試ルノ方法ヲ設クベシ

第四 各種ノ樂曲撰定ノ事

國歌資料ノ撰定ヲ始メ其他將來當掛ニ於テ作ル所
ノ樂曲ハ彼我雅俗流派ヲ論セズ至頁ト認ムルモノ
ハ之ニ和聲ヲ附シ漸次蒐集シテ書冊ト作シ之ヲ世
ニ公ニスベシ

此類ノ歌曲撰定ノ方法ハ先最初ニ當掛員ヲシテ

歌詞ヲ作ラシメ之ニ依リテ同掛員中音樂ニ通スル者ヲシテ樂譜ヲ作ラシムベシ然レモ茲ニ撰定スル所ノモノハ通常ノ和歌ニ異ナリ樂器ニ和シテ歌フベキ歌曲ナレバ其專旨トスル所モ亦樂曲ニ在リテ歌詞ハ之ニ次クモノトス

樂曲ハ總テ普通ノ譜法ヲ用ヰテ之ヲ記シ其最佳ナルモノヲ撰ビメーソン氏ヲシテ其和聲ヲ作ラシメ又ハ歐米各國ノ音樂新誌ニ載セ西人ヲシテ之ガ和聲ヲ作ラシムベシ尤豫メ其新誌ニ廣告シテ至良ノ和聲ヲ作りタル者ニハ若干ノ賞金ヲ附與スルノ法ヲ設クルキハ隨分有名ノ大家モ喜ンデ其事業ヲ執ルベケレバ少許ノ費用ヲ以テ最良ノ結果ヲ得且本邦人ノ作りタル樂曲モ博ク世界

ニ知ラル、ノ理ニシテ頗ル良法ト云フベキナリ

第五 俗曲改良ノ事

俗曲ハ我民樂ナリ故ニ此曲ノ正否ハ世教ニ影響ヲ及ボスフ少カラザレバ宜ク改良ノ途ヲ求ムベシ其法蓋シニアリ即チ其曲ヲ全存シテ其歌詞ノミヲ改ムベキモノ及ビ其曲ノ一分ヲ存シテ之カ歌詞ヲ作ルベキモノ是ナリ

從來所用ノ俗曲中其曲ハ頗ル佳良ナルモ其歌詞ノ猥褻ニ流レ若クハ淫行ニ導クノ嫌アルニヨリ稠人公衆ノ前ニ於テ歌ヒ得可ラザルモノ少カラズ是等ハ宜ク其歌詞ヲ改作シテ永存スベシ又俗曲中其一分ハ正キ旋法ニヨリ他ノ一分ハ不正ノ旋法ニヨルヲ以テ甲部ハ取ルベキモ乙部ハ

取ルベカラザルモノアリ是等ハ其一分ヲ存シテ
相當ノ歌詞ヲ填入スベキモノトス
此事業ニ就テハ當掛員中俗曲ニ通スル者ヲシテ
先ツ取用スベシト認ムル所ノ樂曲ヲ撰バシメ然
ル後ナ之ニ適スベキ歌詞ヲ作ラシメ且其曲ヲ解
剖シテ樂譜ヲ作り輯メテ書冊トナシ世ニ公行シ
間接ニ俗曲ノ流弊ヲ矯正スルノ用ニ供スベシ

内外音律ノ異同研究ノ事

其一 音樂教師メーソン氏來航ノ始メニ當リ本邦在來ノ諸種ノ音樂ヲ審聽セシメ其音律ノ西律ニ異ナル所アリヤ又其聲曲ノ正理ニ適スルヤ否ヲ訊問セシニ同氏ノ言ニ本邦音樂ニ熟スル所ノ諸家奏スル所ハ毫モ西律ニ異ナルヲナシ但其旋律ノ法ニ於テハ少ク異ナル所アリト云ヒシカ今日ニ至リテハ愈其眞ニ然ルヲ信シテ毫モ疑フ所アルヲ見ズ

其二 本邦音樂家ニ就キ我音律ノ西律ニ齊キヤ否ヲ訊問セシニ箏曲家山勢松韻ノ如キハ始メテ「ピア」ノ音ヲ知リタル時ヨリ其律ト箏ノ調子トハ毫モ異ナル所ナシト云ヘリ又雅樂家ノ諸氏ニ就テ之ヲ質

セシニ我十二律ハ「ピアノ」ノ十二音(全音七半音五ヲ合シテ云フ)ニ殆ト相同シト云ヘリ於是乎東西音樂家ノ説ク所恰モ符節ヲ合スルガ如キヲ知レリ

其三 音樂取調掛ニ傳習人ヲ置キシ以來入學セシ所ノモノハ皆從前或ハ箏曲ニ或ハ長謠ニ或ハ清樂ニ或ハ雅樂ニ通セシ者ナリ故ニ若シ本邦ノ音律即チ從前彼等カ習學セシ所ノ聲曲ヲシテ西洋ノ音律即チ今將ニ習學セントスル所ノモノト大異アラシメバ其成業ハ殆ト期ス可ラザル程ノ困難ヲ來スベシ何トナレバ從前習學シテ深ク腦漿ニ浸入セシ所ノモノヲ全ク除却スルニ非レバ新律ニ移ル能ハザルヲ以テナリ然ルニ其實蹟ニ就テ之ヲ考察スレバ雅樂箏曲長謠等ニ熟セシモノハ其進步特ニ著シク教

師メーソン氏ヲ始メ他ノ洋人等モ其習熟ノ迅速ナルヲ驚愕シテ措カザルニ至レリ亦以テ彼我ノ音律異ナラザルヲ知ルベキナリ

其四 以上歷舉セシ所ノ諸證ハ可ハ即チ可ナリト雖モ皆ナ偏ニ音樂家ノ耳覺ニ賴テ之カ判斷ヲ下セシモノニシテ理學上ノ理論ヨリ之ヲ明決セシモノニ非ス故ニ音樂ニ熟スルモノハ其眞ニ然ル所以ヲ知リテ之ヲ確信スベシト雖モ未タ以テ音樂ニ熟セザルモノヲシテ之ヲ確信セシム可ラズ於是更ニ一法ヲ發明シテ理學上ヨリ之ヲ證センコトヲ務メ乃チ左ノ結果ヲ得タリ

凡ソ我國ノ樂器中廣ク世上ニ行ハル、ハ三絃ニ超ユルモノナシ故ニ三絃ヲ以テ彈スル所ノ歌曲能ク

西律ニ合スルモノナレバ以テ我民間ノ聲律ノ彼律ニ等キヲ證スルヲ得ベシ故ニ本掛ニ於テハ試驗ヲ施スニ當リ特ニ三絃ヲ用テ其目的ヲ達センヲ務メタリ

音律ノ事ヲ精究センニハ空氣ノ顫動數ニ根スル所ノ數理ニ據ラザル可ラス然レモ其事タル頗ル精確ヲ要スルモノニシテ實施ノ困難ヲ極ムルカ故ニ今一ノ便法ニヨリテ之ヲ證明スベシ其方法即チ左ノ如シ

今一絃ヲ取りテ其發スル所ノ音ヲ根基ト定メ其絃ヲ二分シテ之ヲ彈スレバ乙音(本邦ノ第十三律即チ西洋ノ第八音)ヲ發シ之ヲ三分スレバ第五音ヲ發シ之ヲ四分スレバ乙音ノ第八音ヲ發スベシ次ニ之ヲ

五分シ六分シ七分シ八分シテ逐次諸音ヲ發スルハ自然ノ理ニ出ツルモノニシテ之ヲ天然ノ和絃ト稱ス右ノ理ニ從テ各音ヲ發スル所ノ絃ノ長ヲ定ムル

一ハ 第一音ヲ發ス

二分ノ一ハ 第八音即チ第一音(乙)ヲ發ス

三分ノ一ハ 第五音ヲ發ス

四分ノ一ハ 第一音(丙)ヲ發ス

五分ノ一ハ 第三音ヲ發ス

六分ノ一ハ 第五音(乙)ヲ發ス

七分ノ一ハ 第七音短ヲ發ス

八分ノ一ハ 第一音(丁)ヲ發ス

右ノ分數ニヨリテ第一第三第五第七短及第八ノ五

音ヲ發スベキ絃ノ長サヲ定メ得ベシト雖モ他ノ諸音ハ之ヲ定ムル能ハズ故ニヘルムホルツチンダルナヤペルノ如キ理學者ニシテ最モ音樂ノ理論ニ精通セシ諸氏ノ説ヲ取リ之ヲ補足スル丁左ノ如シ

- 第一音ヲ一ト定ムレバ
- 第一音嬰ハ 十七分ノ十六ナリ
- 第二音ハ 九分ノ八ナリ
- 第二音嬰即チ短第三音ハ 六分ノ五ナリ
- 第三音ハ 五分ノ四ナリ
- 第四音ハ 四分ノ三ナリ
- 第四音嬰ハ 二十三分ノ十六ナリ
- 第五音ハ 三分ノ二ナリ
- 第五音嬰即チ短第六音ハ 八分ノ五ナリ

第六音ハ 五分ノ三ナリ
 第六音嬰即チ短第七音ハ 七分ノ四ナリ
 第七音ハ 十五分ノ八ナリ
 第八音ハ第一音ノ乙音ニシテ 二分ノ一ナリ

今三絃ノ柱ヨリ棹頭ニ至ルノ距離二尺五寸八分アルニヨリ上ノ比例ニヨリ諸音ノ位置ヲ定ムレハ各音ノ絃ノ長サ左ノ如クナルベシ

- 第一音 二尺五寸八分
- 第一音嬰 二尺四寸二分八厘
- 第二音 二尺二寸九分三厘
- 第二音嬰 二尺一寸五分
- 第三音 二尺〇六分四厘
- 第四音 壹尺九寸三分五厘

第四音嬰 壹尺七寸九分四厘
 第五音嬰 壹尺七寸二分
 第六音嬰 壹尺六寸一分二厘五毛
 第六音嬰 壹尺五寸四分八厘
 第七音嬰 壹尺四寸七分四厘
 第八音 壹尺三寸三分一厘
 第八音 壹尺二寸九分
 右ノ如ク各音ノ絃ノ長ヲ定メ三絃ノ棹ニ横線ヲ畫
 シテ其位置ヲ記シ山勢松韻ヲシテ本邦ノ俗曲ヲ彈
 セシメシニ左ノ如キ結果ヲ得タリ
 第一 三絃ノ諸調子
 本調子ト稱スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二
 ノ絃ヲ第四音トシ三ノ絃ヲ第八音トス

二上リト稱スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二
 ノ絃ヲ第五音トシ三ノ絃ヲ第八音トス
 三下リト稱スルモノハ一ノ絃ヲ第一音トシ二
 ノ絃ヲ第四音トシ三ノ絃ヲ第六音嬰即チ短第
 七音トス
 右各調子ノ諸音ヲ定ムルニハ山勢ヲシテ三絃ヲ各
 種ノ調子ニ合セシメ然ル後第一絃ヲ取り前ニ記ス
 ル所ノ諸種ノ横線上ニ於テ之ヲ押へ或ル點ニ於テ
 發スル所ノ音第二絃ト合スルキハ同律相應スルノ
 理ニヨリテ忽チ其顫動ヲ第二絃ニ傳へ又他ノ點ニ
 於テ發スル所ノ音第三絃ト同律ニ至ルキハ其顫動
 ナ第三絃ニ傳フルヲ以テ眼能ク律ノ異同ヲ判スル
 ナ得タリ甲ハ全ク耳覺ニヨリテ音律ヲ調シ乙ハ偏

ニ視力ニヨリテ其異同ヲ檢シ甲乙ノ成績恰モ符節
 ナ合スルカ如ク前條掲クル所ノ諸音ヲ得タルハ亦
 奇ナラズヤ
 三絃ニ用フル各調子ノ上ニ掲ル所ノ如キハノ
 ン氏ノ早ニ發見セシ所ニシテ他ノ洋人及日本人中
 ニモ其然ル所以ヲ説キシモノ既ニ數名ノ多キニ至
 レリ然レモ理學上ノ道理ニヨリテ之ヲ證明セシハ
 蓋シ前記ノ試験ヲ以テ始トスルモノナリ
 本邦三絃ノ調子ノ西律ニ同シキハ既ニ前ニ説クカ
 如シト雖モ其奏曲ノ際果シテ正律ニ合スルヤ否ヤ
 ハ未タ世人ノ知ラサル所ナリキ然ルニ本掛ニ於テ
 ハ又一ノ試験ニヨリ其眞ニ然ル所以ヲ發見セリ即
 チ横線ヲ棹上ニ畫シテ諸音ノ位置ヲ定メタル所ノ

三絃ヲ取り山勢氏ヲシテ本邦ノ俗曲數種ヲ奏セシ
 メシニ其際同氏ガ指頭或ハ甲ノ横線上ニ或ハ乙ノ
 横線上ニ至リテ之ヲ押ユルモ未タ曾テ線上ヲ離レ
 テ他處ニ走ルヲナシ同氏ハ素ヨリ盲人ナルヲ以テ
 其横線何ノ處ニ畫セルヤヲ知ルノ理斷エテ有ルヲ
 ナシト雖モ其指頭ノ全ク各音ノ位置ニ至ルヲ見レ
 ハ以テ我俗曲ニ用フル所ノ聲律ハ自ラ西洋ノ律ニ
 異ナラザルヲ證スルニ足ルベシ尤三絃ノ如キ不完
 全ナル樂器ハ音調狂ヒ易キモノナルヲ以テ理學的
 ニ精確ナル結果ヲ求メンヲハ得テ望ム可ラザルナ
 リ

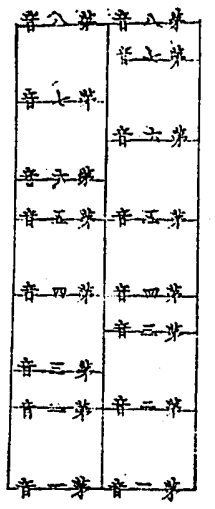
第二 箏曲ノ調子

平調子ト稱スル所ノモノハ二ノ絃ヲ第一音ト

シ三ノ絃ヲ第二音トシ四ノ絃ヲ第二音嬰即チ
 短第三音トシ五ノ絃ヲ第五音トシ一ノ絃ハ之
 ト同律ナリ然シテ六ノ絃ヲ第五音嬰即チ短第
 六音トシ七ノ絃ヲ第八音トス即チ二ノ絃ノ乙
 音ナリ其他諸絃ハ次ヲ逐テ諸音ノ乙音トナリ
 又斗爲巾ノ三絃ハ丙音トナルモノナリ
 箏曲ニ用フル所ノ調子ノ類多シト雖モ其律ニ
 異ルトコロナキハ準シテ知ルヘキナリ
 右ニ掲ケタル平調子ナルモノハ西洋ノ短音階ニ毫
 モ異ナルヲナシ抑モ短音階トハ第三音ト第六音ノ
 短ナルモノヲ稱スルナリ
 西洋ノ音樂ニハ長音階ト短音階トノ二種アリテ之
 ナ併用セザルニ非スト雖モ多クハ長音階ヲ用ヒ短

音階ハ悲哀ノ曲ノ如キ陰氣ヲ帶ルモノニ非レハ之
 ナ用フルヲ甚稀ナリ然ルニ本邦ノ音樂ニハ短音階
 ナ用フルト却テ多ク偶々長音階ヲ用ヒント欲スル
 片ハ第三音ト第六音トチ高クスト云ヘリ今長短二
 種ノ音階ヲ示ス左ノ如シ

長音階
短音階



以上歷舉スル所ノ諸證ニヨリテ見ル片ハ我音律ト
 西洋ノ音律トハ毫モ異ナル所ナシト論決シテ可ナ
 リ

本邦音階ノ事

我邦在來ノ音樂ハ之ヲ大別シテ二種トス曰ク雅樂曰ク俗樂是ナリ蓋シ雅樂ハ支那傳來ノ音樂ナリ支那ノ音樂ニ於テハ宮商角徵羽ト云フヲアリ之ヲ總稱シテ五聲ト曰フ是レ音樂ノ基礎ヲナスモノニシテ支那ニ於テモ其由來最モ久シ然リ而シテ支那ニテハ音律ヲ調スルニ古來三分損益ト云フヲ唱ヘ日本ニテハ順八逆六ト云フヲ唱ヘ來レリ其大畧ハ左ノ如シ

壹越上無神僊盤涉鸞鏡黃鐘鳥鐘双調下無勝絕平調斷金壹越

逆六 ↓

逆八 ↓

順八 ↑

順六 ↑

今音樂上ノ術語ヲ以テ之ヲ説ケハ順八ハ第五音ニシテ逆六ハ第四音ニ當レリ即チ順八トハ五音ヲ加フルコトニシテ逆六トハ四音ヲ減スルコトナリ故ニ本邦音樂家ノ云ヒ來リシ順八逆六ト云フハ五音ヲ加ヘ四音ヲ減スルト同シ但シ呂旋ニ在リテハ此法ヲ以テ諸音ヲ取り得ベシトイヘモ律旋ニテハ少シク難キ所アリ故ニ順六逆八ナルモノヲ用フルチ便トス即チ壹越ヨリ双調ニ至ルハ順六ニシテ黃鐘ヨリ壹越ニ至ルハ逆八ナリ然レバ則チ順六ハ四音ヲ加フルニ同シクマタ逆八ハ五音ヲ減スルニ同シ

壹越、斷金、平調等ノ律名ヲ用フルハ唱歌上ニ演奏上ニ其他記譜上等ニ不便少カラサルヲ以テ本掛ニ於テハ從來(イ)(ロ)(ハ)等ノ假字ヲ以テ其用ニ供セリ即チ二者ヲ

對比スレバ左ノ關係ヲ有スルチ知ルベシ

ニハハロイイトトヘヘホニニ

壹越、上無、神僊、盤涉、鸞鏡、黃鐘、鳧鐘、双調、下無、勝絶、平調、斷金、壹越、

又宮商角等ニ代フルニハ(1)(2)(3)等ヲ以テセリ是レ要スルニ其理ヲ同シテ其用ニ便ナルヲ以テナリ即チ二者ヲ對比スレ左ノ如シ

- 1 宮
- 6 羽
- 5 徵
- 3 角
- 2 商
- 1 宮

抑音樂ノ學理上ニ於テハ宮商角徵羽ノ五聲ヲ以テ足

レリトスルトコロナリトイヘニ實地家ニ於テハ樂曲
 製作上ナホ不完全ヲ覺フルニヨリ更ニ二ケノ變聲ヲ
 要シ之ニ由テ始メテ音律ノ完全ナルヲ得タルモノト
 ス但シ此變聲ノ入ルベキ所ハ甚々不定ナリト雖モ何
 レニセヨ變聲ヲ要スルハ必定ナリ蓋シ呂旋ニ在リテ
 ハ其變聲ハ先ツ之ヲ角ヨリ順八ニトルベシ角ヨリ順
 八ハ則チ變宮ナリ因テ次ニ變徵ヲトル變徵ハ變宮ヨ
 リ逆六ニシテ之ヲ得ベシ是レ本邦音樂實地家ノ要ス
 ルトコロノモノナリ

備之ヲ西樂ニ所謂自然長音階ニ比スベシ該音階ニテ
 ハ本掛所製ノ調絃歌ノ如ク先ツ (1)ヨリ (4)ニ至リ次ニ
 (1)ヨリ (5)ニ至リ次ニ (5)ヨリ (2)ニヨリ (6)ニ
 (3)ヨリ (7)ニ至ル然レハ自然長音階ト日本呂旋ト異

ナル所如何ト云フニ呂旋ニ在リテハ (4)ノ音程半音高
 シ即チ嬰第四音ト爲ル是レ變宮ヨリ逆六ニ取リタル
 ナリ以テナリ然レモ若シ之ヲ宮ヨリ順六ニトラバ則チ
 其第四音ノ正シキモノヲ得ベシ故ニ其相異ナルトコ
 ロハ獨リ變徵ノ取方ノミニ存セリ變徵ハ或ハ退徵ニ
 至リ第四音トナルヲアリト云ヘリ夫レ自然長音階ト
 我呂旋トハ此ノ如クタゞ一ケ不定音ノ異ナルトコロ
 アルノミトス然リ而シテ變徵ハ我音樂ニ出ルヲ甚々
 希ナリモシ此變徵ノ常用ナルモノナランニハ此音ノ
 ナキニ苦シムベシ然レモ變徵ハ至テ希ニ出ルヲ以テ
 此ノ變徵ノ全ク欠クルモマタ理論上及ヒ技術上敢テ
 大ナル影響ナキモノトセリ

自然長音階ト呂旋ト相等シキヲ其レ此ノ如シ故ニ之

ニ (1) (2) (3) 等ヲ記入スレバ左ノ如シ

呂 旋 宮

1	宮 變
7	
6	羽
5	徵 變
4	
3	角
2	商
1	宮

自然長音階

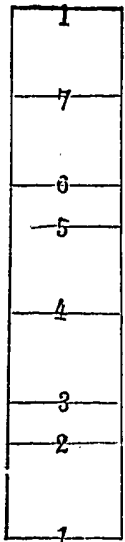
蓋シ變徵ハ (5)^レ (4)^レ (5)^レ (ヤ)ニ當リ西樂ニ於テモ此音ハ最モ動キ易キモノトス
 次ニ律旋ニ就テ述ベントス律旋モ亦宮商角徵羽ヲ以テ成レリ但シ此旋法ニ於テ先ツ呂旋ニ異ナル所ハ角ニ在リトス即チ律角ハ呂角ニ比スレバ一律ヲ高クス

其調音ハ宮ヨリ順八ニテ徵ヲトル徵ヨリ逆六ハ商トナリ商ヨリ順八ハ羽トナル茲ニテ呂旋ナレハ羽ヨリ角ヲ取ルベキナレモ律旋ナルヲ以テ宮ヨリ順六ニ其角ヲ求メザル可ラズ律旋ノ五聲旣ニ成ル然レモ律旋モマタ五聲ノミニテハ少シク足ラザルトコロアリ故ニ嬰羽嬰商ノ變聲ヲ要セリ嬰羽ハ角ヨリ順六ニ當リ嬰商ハ嬰羽ヨリ逆八ニ當ル順六逆八ハ律旋ヲ調スルニ必要ノモノトス雅樂ニテ箏ヲ調フルニモ實際順六ノ法ヲ用フルト云フ律旋此ニ於テ成ル今之ヲ自然短音階ニ比較スベシ

律 旋 宮

嬰	羽
羽	
徵	
角	
商	嬰
商	
宮	

自然短音階



今此二音階ヲ比較スルニ自然短音階ニ在リテハ第六音ハ^(b6)ニシテ律旋ニ在リテハ⁽⁶⁾ナリ是レ彼此相異ナル一點トス

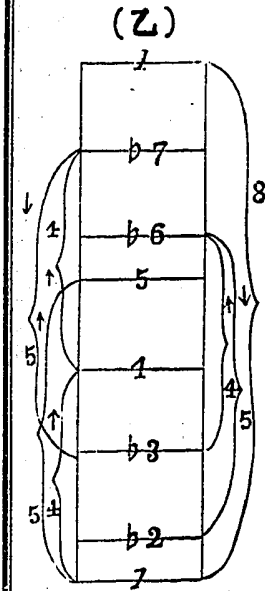
然ルニ律旋ノ唱歌ハ理論上ニハ羽ニ至ルヘシトイヘ^レ樂器ナキ^レハ往々^(b6)ニ下ルヲ發見セリ是レ其動キ易キモノナル所以ナリ蓋シ此第六音ハ音階上緊切ナル關係ヲ有スルモノニテ第三音ノ短ナル^レハ此第六音モ又短トナルヲ常トスルモノ、如シ故ニ呂律二旋法ノ自然音階ニ異ナル所ハ律旋ニテハ^(b6)ニ在リ呂旋ニテハ^(#4)ニアルモノニシテ其變異タル全ク不定音ニ

屬スルモノノミエシテ大體ニ於テハ相同シキヲ自ラ明了ナルベシ

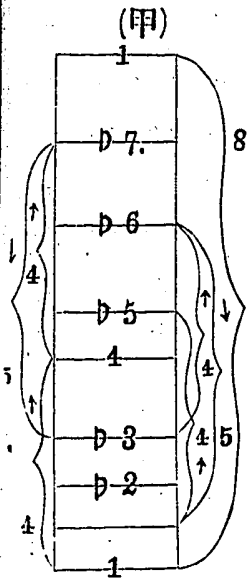
偕是ヨリ俗曲音階ニ涉ルベシ此音階ニ就テハ從來研究シタル者ナクシテ未タ之ヲ確定スル能ハストイヘ^レ本掛ノ研究ニヨリ先其真ニ近キモノニ據テ論ヲ立ントス但シ今日茲ニ其二音階ヲ講述スベシトイヘ^レ未ダ決シテ之ヲ以テ本邦内ノ俗曲皆歸ノモノトハ爲スベカラザルナリ

凡ソ音階ノ研究ニ就テ一困難ハ宮タルヘキ音ヲ發見スルノ難キ是ナリ西洋ノ如ク音階ノ正シク確定セル所ニテハ其事タル甚タ容易ナリトイヘ^レ本邦俗曲ニテハ未タ音階ノ一定セルトコロヲ發見セサルヲ以テ甚タ之ヲ難シトス熟古今ヲ歴觀スルニ我俗曲ニ於テ

モマタミナ多クハ宮音ヲ以テ始リ宮音ヲ以テ終ルモ
ノ、如シタトヒ或ハ宮ヲ以テ始ラサルモ宮ヲ以テ終
ルアリ蓋シ從來研究シタルトコロニ於テハ俗曲ノ宮
ハ西樂ハ(ハ)調音階ノ(ロ)ニ當ルモノトス雅樂ニテハ順八
逆六或ハ順六逆八ノ取方ニテ調ヲ定ムルハ既ニ上述
スルグ如シ俗曲モマタ其理然ルヲ信セリ俗曲中一種
ノ音階ハ即チ左ノ如シ



此音階ニ於テハ先ツ(1)ヨリ(4)ニ取リ次ニ(1)ヨリ(5)ニ
取リ次ニ(4)ヨリ更ニ四音上ニ取ル即チナリ次ニ此
トヨリ五音下ニ取ル即チヨリ四音上ニ
(b 7) 取リ次ニ(4)ヨリ更ニ四音上ニ取ル即チナリ次ニ此
トヨリ五音下ニ取ル即チヨリ四音上ニ
音階ノ構成上ニテ調子ヲ取レハ如此ナレモ實地音楽
ニテハ更ニ便法ニ據リテ諸音ヲ調スルモノアリ
俗曲ニハ此他ナホ一種ノ音階アリ此一種ニ於テハ前
ノ一種ニ異ナルトコロハ(5)ノトナルノ一點ノミニ
在リ律ノ取方ハ即チ記號ヲ以テ指示スル如シ



抑俗曲中ニ往々此種類ノモノアリトイヘ田舎ノ童
 謡等ノ如キ風俗歌中ニハ或ハ決シテ此ニヨラズレテ
 却テ自然音階ニ近似セルモノアリ故ニ斯ノ如キ音階
 ナ以テ本邦固有ノ音階トハ爲スベカラザルナリ
 音律ハ生活物ノ所用ニ屬スルヲ以テ演奏ノ際自然ノ
 變化ヲ來スハ數ノ免レザル所ニシテ從來ノ研究ニヨ
 レバ其律次第ニ上騰スルハ信シテ疑ハザルトコロナ
 リ故ニ今日壹越ト稱スル所ノ律モ數百年ノ後ニハ今
 日ノ斷金ニ等シキニ至ルベク又今日ノ黃鐘ハ古昔ノ
 黃鐘ニ等シカラザルハ唯理論上ニ然ルノミナラズ其
 證憑分明ナリトス然リ而シテタトヒ音律ハ斯ノ如ク
 變シ易キモノナルモ其調子ノ取方ニ至テハ千古不變
 ナルモノトス即チ壹越ノ律ヨリ黃鐘ノ律ニトルガ如

キハ壹越ノ律上騰スレバ黃鐘モ亦隨テ上騰スベク其
 四音五音ノ關係ヲ有スルハ未ダ曾テ變ゼザルトコロ
 ニシテ天下普通ノ大理ナリ其詳細ノ如キハ次項ニ就
 テ更ニ之ヲ證論スベシ

音樂ト教育トノ關係

長短二音階ノ關係

音樂ノ人心ニ感動スル影響ノ大ナル所以ハマタ更ニ
喋々スルヲ要セザルモノ、如シ然リト雖モ呂律ノ旋
法ニ種々アリ其良否ヲ審察シテ之ヲ取舍セザレバ其
得失利害ヲ異ニシ音樂ノ妙用却テ其反對ノ結果ヲ來
スハ古今ノ史乘ニ徵スルトコロナリ蓋シ音律ノ旋法
ハ古今東西其種アリトイヘヒ之ヲ約スルニ長音階ト
短音階ト此長短二音階ヲ混同セルモノ少許トニ止マ
レリ此混同ノ一種ハ姑ク之ヲ舍キ單ニ長短音階ノ得
失利害ヲ照査スルニ長音階ノ旋法ニ屬スル樂曲ハ勇
壯活潑ニシテ其快情實ニ極リナシ之ニ反シテ短音階

ノ旋法ニ屬スルモノハ柔弱憂鬱ニシテ哀情ノ甚タシ
 キモノトス故ニ長音階ノ樂曲ヲ演スル者ハ心性ノ淵
 底ヨリ歡樂ヲ覺ヘ其快情發シテ容貌ニ顯ハレ之ヲ見
 聞スルモノトイヘ凡知ラス識ラス亦其快樂ヲ享クル
 ニ至ル而ルニ短音階ノ樂曲ヲ演スル者ハ哀情計ラズ
 悲歎ノ感ヲ催フシ其外貌ニ露ハル、ヤ覆ハントスル
 モ得ベカラザルニ至ル是ヲ以テ幼時長音階ニ由テ薰
 陶ヲ受ケシ者ハヨク勇壯活潑ノ精神ヲ發育シ有德健
 全ナル心身ヲ長養スルヲ得マタ幼時短音階ニ由テ教
 練ヲ受ケシ者ハ柔弱憂鬱ノ資質ヲ成シ無力多病ナル
 氣骨ヲ求ムヘシ而シテ勇健ハ人ノ要スルトコロニシ
 テ柔病ハ人ノ免カレントスルトコロノモノナリ是故
 ニ歐米ノ各國其唱歌ヲ學校教科ニ充ツルヤ皆此長音

階ヲ採テ短音階ヲ棄ツ是其子弟ヲシテ勇偉快活ナラ
 シメンコトナ期シ鬱閉無力ナラシメンコトヲ避クル所以
 ナリ希臘ノプラトハ則テ國人ヲシテ強豪ナラシメン
 トノ熱心ヨリ管ニ婉柔ナル樂曲ヲ禁セシノミナラズ
 ナホ比類ノ樂器モマダ盡ク之ヲ禁セリ即テ四絃琴、立
 琴、牧羊笛ノミヲ用ヒ横笛及ヒ一切ノ絲樂器ヲ廢シ音
 階モ心身ノ勇壯ヲ致スニ適セル「フリージアン」ノ如キ
 モノ、ミヲ用ヒタリベインノ如キ音樂ヲ知ラザル者
 モナホ其教育學中グロートヲ援キ之ヲ辨ズルコト詳カ
 ナリ且長音階ハ東邦ニ於テモ固ヨリ之アリトイヘ凡
 面邦ニ於テハ實ニ近世表出ノモノニシテ理論ヨリス
 ルモ實地ヨリスルモ教育上ニ於テハ此音階ノ優レル
 ニ若クモノナシ短音階ハ古代ノモノニシテ樂曲ニテ

ハ益古製ノモノニ屬セリ故ニ長音階製ノ樂曲ハ文教
 最進ノ國ニ多ク短音階的ハ其未進ノ國ニ多シ實ニ此
 一事ヲ以テモ教育上ニ用フヘキ樂曲ハ長音階ニ歸ス
 ルヲ知ルベシ即チインゲル萬國音樂論ヨリ左ニ抄譯
 セル表ハ長短調樂曲ノ多少ニ由テ其國教育ノ進度ヲ
 察スベキ一助トス

國名	長調	短調	長起 短止	短起 長止
ゼルマン	九八	二		
スウイス	九二	八		
ポーランド	八八	一〇	二	
セルビア	八八	一〇		二
ボヘミア	八七	一二	一	

ポルチユガル	八五	一二			三
アイルランド	八二	一六		二	
スペイン	七八	二〇		二	
イングランド	七八	二二			
スコットランド	七二	二五		三	
フランス	七〇	二八			二
그리스	七〇	三〇			
ウエールス	六九	三〇	一		
トルコ	六四	二六	六		四
イタリ	五八	四二			
ホンガリ	四九	五〇	一		
フィンランド	四八	五〇	二		
デンマーク	四七	五二	一		

ワラキーア	四〇	五二	八
ノルウエー	四〇	五六	二
ロシア	三五	五二	一一
スウェーデン	一四	八〇	四二

健康上ノ關係

人體中重要ナル機器ハ其數少ナカラズト雖モ中ニ就
 キテ呼吸ニ關セル諸機ノ最モ重ズベキハ皆人ノ知ル
 トコロニシテ人ノ生命ハ呼吸機ノ健否ニ依リ身體ノ
 強弱ハ此機關ノ良否ニ依ルト云フモ可ナルベシ是レ
 人ハ數日食ハザルモナホ其生命ヲ保ツテ得ベシト雖
 モ呼吸ヲ廢シテ秒時モ之ヲ保存スル能ハザル所以ナ
 リ人幼時ニ在テハ其筋肉骨骼柔軟ナルカ故ニ適當ノ

良法ヲ用非テ之ヲ發育スルキハ能ク胸膈ヲ開暢シ肺
 臟ヲ廓大スルヲ得ルモマダ難カラズ然リ而シテ此
 目的ヲ達スルノ方法ハ現時教育家ノ研究セル結果ニ
 據レバ適當ナル唱歌ヲ施スヲ以テ最良トス何トナレ
 バ自然ノ定律ニ從ヒテ教授スルトコロノ適當ナル唱
 歌ハ聲音ヲ練リ體格ヲ正シ呼吸ヲ適度ニ使用シテ胸
 膈ヲ開暢シ以テ肺臟ヲ強健ナラシムルノ効益アルヲ
 以テナリ有名ナル音樂家ノ說ニ據レバ歐米ノ諸國唱
 歌ヲ小學ニ導キン以來統計上人民健康ノ度ヲ進メタ
 リト云フ現ニ本掛傳習生并ニ本掛ニ於テ臨教スルト
 コロノ兩師範學校及學習院生徒ノ如キモ唱歌ヲ修ム
 ル以來其日タル尙淺シトイヘモ其中往々血色ヲ進メ
 健康ヲ致セシ者アリ是レ各種ノ因由ノ致ス所ニシテ

一二ノ單因ニ歸ス可ラズト雖モ亦以テ唱歌ノ健全上ニ益スル一端ヲ見ルニ足ルモノト云ベシ

道德上ノ關係

音樂ハ人性ノ自然ニ基キ其心情ヲ感動激觸スルモノニシテ喜悅ノ歌曲ハ人心ヲ喜バシメ悲哀ノ歌曲ハ人心ヲ悲歎セシムル等ノ如ク一モ心情ノ感動ヲ生ゼザルモノナシ故ニ正雅ノ歌ヲ歌フキハ心自ラ正シ和樂ノ音ヲ聞クキハ心自ラ和テク心和キ正シキキハ邪惡ノ念外ヨリ入ル能ハズ心ニ邪惡ノ念ナキキハ善ヲ好シ惡ヲ避クルハ人ノ常ナリ是ヲ以テ心ヲ正シ身ヲ修メ俗ヲ易フルハ音樂ニ如クモノナシ古語ニ曰ク禮樂不可以須臾去身ト聖賢ノ禮樂ヲ重スル其レ斯ノ如シ抑幼時ハ人ノ畢生ニ於テ最モ感化ノ速ナル時期ニシ

テ後來善惡ノ別ヲ顯ハスハ則チ此時ノ薰陶ニ因由セザルモノナシ故ニ此幼稚ニ授クルニ至良ノ歌曲ヲ以テセバ温良純正ノ德性ヲ發育スルニ足ルヤ疑ヲ容レズ
夫レ樂ハ同ヲ主トス故ニ三軍ノ將千萬ノ衆ヲ卒非其進退井然トシテ序ヲ失ハズ以テ勝ヲ戰野ニ恣ニスルハ實ニ金鼓ノ力ニ依テ正シク之ヲ指揮スルニ由レリ
教育者ノ子弟ニ於ケルモ亦之ニ異ナラズ千百ノ子弟相和諧シテ坐作進退恰カモ一教師ノ心ヲ以テ其手足ヲ使用スルガ如クニ至ラシムルモノ平素和諧ノ心情ヲ育成スルニ於テ能ハズ抑和諧ナキノ子弟ハ
校中ニ在テハ或ハ喧鬧ヲ好ムノ生徒ト爲リ家庭ニ在テハ或ハ不和ヲ生スルノ子弟ト爲リ世上ニ出テハ或

ハ不信ノ人民ト爲ルナリ然リ而シテ此和諧ノ心情ヲ
 發育スルハ音樂ノ力與リテ効アリトス蓋シ音樂ハ同
 情相憐ミ彼此相親睦スルノ至情ヲ感發セシムルノ基
 礎ヲ爲スモノナリ
 凡ソ人ハ貴賤長幼ヲ間ハズ皆快樂ヲクシテ一日モ生
 活シ得ベキモノニアラス概スルニ多ク勞苦スル者ハ
 隨テ多ク快樂ヲ求メザルヲ得ズ然ルニ快樂ノ類々
 ル一ニシテ止マズ情慾ニ關スルアリ智德ニ係ルアリ
 其孰タルヲ間ハス此等ノ一ニ依ラズシテハ日々夜々
 我心身上ニ起リ來ルトヨロノ憂苦ヲ去リテ我生存ヲ
 樂シミ我生命ヲ保ツト能ハス既ニ快樂ノ人身上缺ク
 ベカラサルヲ斯ノ如ク然リトセバ不良ノ快樂ヲ去テ
 善良ノ快樂ニ就カザル可ラズ抑快樂ノ類タル千差萬

別ナリトイヘ能其至善至良ナルモノハ音樂ニ如クハ
 ナシ何トナレバ雅正ノ音樂ハ人心中最高ノ感情ヲ發
 動シテ無窮ノ愉快ヲ與ヘ邪慾ヲ去テ心根ヲ淨潔ニシ
 耽色酗酒ノ醜行ニ陥ルヲ妨グノ効アリ然シテ音樂ノ
 物タル之ヲ行フ決シテ巨多ノ浪費ヲ要セザルヲ以テ
 貧福ヲ問ハス之ヲ享有スルヲ得ヘケレバナリ現今我
 諸學校ノ生徒ヲ見ルニ或ハ酒食ニ關スルノ快樂ヲ求
 メテ困學ノ苦ヲ免カレシヲ謀ル者少カラザルニ似
 タリ是レ他ナシ別ニ適當ノ快樂ヲ求ムルノ途ナキヲ
 以テ遂ニ酒食ノ如キ最下等ノ快樂ニ陥ルニ至レルモ
 ノナラン故ニ此弊風ヲ除クノ良法ハタ、音樂ノ如キ
 善良ナル快樂ヲ得セシメテ他ノ不善ナル快樂ニ易フ
 ルニ在リトス佛帝ナボレオン嘗テ曰ク音樂ハ人情上ニ

至大ノ感化ヲ興シ人心上ニ非常ノ勢力ヲ及ボスモノ
 ナリ故ニ政府ハ音樂ノ一學術ニ就テハ他ノ諸學術ニ
 於ケルヨリモ一層獎勵スルヲ勉ムベシ名家ノ作ニ係
 ル道徳上ノ歌曲ハ深ク人心ヲ感動セシムルヲ道徳ヲ
 論スル書ノ唯智力ニ訴ルモノ、比ニアラザルナリト
 前述ノ目的ヲ達センニハ先ツ何レニ於テ之ヲ施スベ
 キヤ曰ク小學ニ於テスルノ善キニ如クモノナシ夫レ
 小學ハ嬰兒ヲ薰陶鑄冶スルノ最緊要場ニシテ嬰兒ハ
 人生ノ萌芽ナリ蓋シ萌芽軟緑ハ風化感染ノ効最モ銳
 シ故ニ之ガ滋養ニ供シ之ガ周匝ニ布スルモノハ最モ
 謹ンテ之ヲ撰擇セザルベカラズ故ニ歌曲ノ如キモ快
 活優美ニシテ風致アリ善ク人ヲ正路ニ導キ自ラ其心
 ノ邪穢ヲ去ルニ足ルベキモノヲ以テ妙トス是ヲ以テ

本掛ニ於テ撰定スルトコロハ多ク此意ヲ主トシ勉メ
 テ平和ニシテ議論ニ涉ラザルモノヲ取レリ間々理義
 ナ説クモノアルモ多クハ花鳥風月ノ辭ヲ其間ニ雜ヘ
 テ心神ヲ悅懌セシメ識ヲズ知ヲズ善ニ化シ邪ヲ去ル
 ノ意ヲ寓シ專ラ徳育ニ資スルトコロノモノヲ取用セ
 リ例ヘハ幼稚進學ノ快情ヲ披露スルモノニハ「進め」
 ノ如ク朋友ヲ愛慕シ交際上信義ヲ厚ウスルノ心情ヲ
 養成スルモノニハ「霞か雲か」螢の光」等ノ如ク父母ノ恩
 惠ヲ慕ハシムルモノニハ「大和撫子」思ひ出さば」等ノ如
 ク 聖主ノ徳澤ヲ欽慕シ臣道ヲ盡スベキ至情ヲ養成
 セシムルモノニハ「雨露お」忠臣」等ノ如ク尊王愛國ノ赤
 心義氣ヲ喚發セシムルモノニハ「君か代」皇御國」等ノ如
 ク敬神ノ心ヲ起サシムルモノニハ「榮がゆく御代」ノ如

キ是ナリ
以上述ブル所ニヨリテ唱歌ノ教育上ニ關シ特ニ體育
及ビ德育ニ資スルノ大ナルハ自ラ明了ナルベシ

管絃樂ハ西國ノ音樂中最高ノ地位ヲ占ムルモノナリ
故ニ本掛ニ於テハ本邦ノ雅樂ニ熟セル者其他音樂ニ
オアル者ニ此樂ノ傳習ヲ施セシニ教師メーソン氏能
ク力ヲ茲ニ竭シ傳習人ノ進歩見ルベキヲ致セリメー

ソソ氏歸國ノ後ハ獨逸國音樂教師エケルト氏特ニ來
 リテ其業ヲ執リ教導頗ル嚴勵ナリ是ヲ以テ方今ハ只
 管教師ノ手ニ倚ラズ樂譜ノミニ依テ樂曲ヲ演奏シ得
 ベキノ地位ニ至レリ抑此管絃樂ヲ以テ公衆ノ會同セ
 ル席上ニ演奏シタルハ明治十四年五月 皇后宮東
 京女子師範學校ニ行啓ノ節ヲ始トシテ爾後音樂取調
 成績報告會兩師範學校春秋卒業式學習院等ニ於テ之
 ナ演奏シ屢中外人ヲ驚嘆セシムルニ至レリ管絃樂傳
 習人中進歩ノ特ニ著シキハ伶官出身ノ輩ナリ抑我朝
 ハ二千五百有餘年大統連綿タル國體ニシテ雅樂モ爲
 ニ其成立ヲ久シウスルヲ以テ古來伶官ノ職アリ世々
 相襲ヘリ故ヲ以テ其耳力即チ音律聽別力ノ銳敏ナル
 事非常ナリ蓋シ音樂唱奏ノ細法ニ至テハ彼我東西ノ

間小差ナキニ非スト雖モ音律作用ノ自然ニ於テハ古
 今天下ノ異ナルトコロナキニヨリ雅樂ヲ練習セル耳
 カヲ以テ西國管絃樂ヲ練習スルノ毫モ障ナキノミナ
 ラズナホ其進歩ノ特ニ較著ナル所以ナリ

俗曲改良ノ事

本邦俗曲ハ古來識者ノ爲ニ放擲セラレ舉ケテ之ヲ無
學ノ輩ノ手ニ委スルヨリ音樂ノ本旨ニ悖リ人事至底
ノ用途ニ歸シ隨テ野卑ニ流レ其歌曲ノ成立ハ今日最
モ下流ノ極ニ達セリ是ヲ以テ其弊害勝テ言フベカラ
ザルモノアリ試ニ其一ニ述ベンニ俗曲ノ流弊猥褻
ナルハ風教ノ酖毒ヲ爲ス是其一也俗曲ノ旋律流弊風ヲ
極ムルハ士人ノ趣味ヲ流佚ニ導キ爲メニ雅正善良ナ
ル音樂ノ振興ヲ妨害スル是其二也俗曲ノ流弊邪ナルハ
誘惑ノ途ヲ開キ德教ノ涵養ヲ妨害スル是其三也外交
日新ニ際シ彼此ノ文物相融通スルノ今日ニ在テナホ
此ノ如キ音曲ノ盛ニ行ハルハ國家ノ体面ヲ毀損ス

ル是其四也然ルニ俗曲ハ今日民間流行ノ甚タシキモ
 ノニシテ下民ノ風俗ハ殆ト茲ニ根據スルノ勢アリ故
 ニ人民ヲ猥褻淫行ニ誘致スルハ職トシテ此俗曲ノ然
 ラシムルトコロトスルモ敢テ過言ニアラザルベシ即
 チ今ノ人情ヲ察スルニ父母ノ困窮ニシテ其子女ヲ學
 校ニ送ル資力ナキモ朝ニ夕ニホ此俗曲ヲ勉學セシ
 メザルハナクマタ雅正善良ナル音樂ヲ聽テ心身ノ修
 養ヲ正路ニ要メシヨリハ寧ロ淫野ノ音曲ヲ聞テ目前
 ノ快ヲ取ラザルハナシ是ヲ以テ上流ノ婦女ニ在リテ
 ハ間々口ヲ掩フテ演シ耳ヲ掩フテ聽クナキニアラザ
 ルモ此曲ヲ學ビ此曲ヲ聽カザレハ殆ト世間ニ齒スル
 能ハザルノ弊勢ヲ致セリ故ニ此淫曲ニシテ此勢力ヲ
 逞スル間ハタトヒ雅正善良ナル音樂ヲ興スルニタトヒ

千百ノ校舍ヲ連ヌルモマタタトヒ盡善盡美ノ教育ヲ
 布クモ稍赤手ニ狂瀾ノ勢アリ功豫メ期スベカラザル
 ニ似タリ然レバ則チ之ヲ處スルノ方略如何ハマタ既
 ニ識者社會ノ一大問題ト爲レリ或曰俗曲ハ舉テ之ヲ
 禁斷スベシ或曰俗曲ハ下等社會ノ樂ト爲シ中人以上
 ニ用フベカラズ或曰舊來ノ俗曲ハ一時ニ之ヲ廢絶シ
 テ新曲ヲ撰定スベシ云云ト此等ノ諸說各一理ナキニ
 アラザレモマタ皆言フベクシテ行フベカラザルノ說
 ナリタトヒ之ヲ嚴禁セントスルモ如此民心ニ蟠屈シ
 タルモノハ已ニ容易ニ抜クベカラザルノ根幹ヲ成セ
 リ加フルニタトヒ現存ノモノヲ禁ズルモ之ニ易フル
 良樂ナキ以上ハ又其害ヲ他ニ發出セント疑ナシ之ヲ
 下民ノ樂トナシテ中人以上ニ用ヒザラントスルモ此

樂曲ノアラシ限リハ勢其害ヲ上流ニ及ボスナキ能
 ハズ況ンヤ下民ノ間ニ於テ其弊害ノ甚ダシキニ於テ
 ヲヤマタ之ヲ一朝ニ全廢シテ之ニ易フルニ新曲ヲ以
 テセントスルモ一朝全廢ノ件タル已ニ擧グベカラザ
 ルノ難事ナルニ新曲ヲ起スノ件モマタ頗ル難事ナリ
 故ニ此說ニ難ヲ併受スルノ大業ニシテ難中ノ至難ト
 云ハザルベカラズ然ラバ則チ俗曲ハ之ヲ處スルノ方
 策ナシトセンカ曰否俗曲ハ之ヲ改良スルノ宜キニ如
 クモノナカルベシ改良ハ所謂毒ヲ以テ毒ヲ救フノ策
 ニシテ之ヲ誘導前進セシムルノ最良好舉トス是即本
 掛カ茲ニ見ルトコロアリテ已ニ此改良ニ着手セル所
 以ナリ然ルニ本掛創置ノ日タル尙淺クシテ昇平無事
 ノ聖治ニ際シ音樂ノ勃興ヲ致シ掛務百出殆ト苦難ヲ

極メタリ故ニ此改良ノ爲ニ未ダ曾テ十全ノ精力ヲ傾
 注スル能ハズ且從來俗曲現及ノ害ノミニノ既ニ頗ル
 深大ヲ極ムルノ際マタ本掛此俗曲ニ涉ルノ說一朝世
 間ニ流布セバ蠶爾タル愚民其改否善惡ヲ問ハズ靡然
 トシテ風ニ嚮ヒ却テ淫樂ノ勢炎ヲ加ヘントスルノ恐
 レアリ是此改良ニ躊躇シタル所以ナリ然リト雖モ今
 日ニ至リテハ本掛ノ事務既ニ緒ニ就キ學校音樂ノ基
 礎定立シ一方ニ向テハ雅正ノ趣味ヲ養成スルノ法ヲ
 設ケタリ又歌曲編制ノ事ニ至リテモ諸員ノ熟練前日
 ノ比ニアラズ故ニ進ンテ他ノ一方ニ向テ俗樂ノ事ニ
 及ボシ十分ノ精力ヲ盡スベキノ機ニ達セリ是本掛力
 益此改良ヲ振作勉勵セントスル所以ナリ故ニ先ツ從
 來着手セル俗曲改良ノ方法ヲ左ニ陳述シ次ニ此改良

歌曲ヲ實施セント欲スル所以ノ方法ニ及ブベシ
 抑俗曲ハ上文ニ反覆スル如ク固ヨリ遙野ヲ極ムルト
 イヘモ又悉皆萬種徹頭徹尾然ルモノニアラズ其中婉
 美ノモノモ少カラズ弊害モ多少淺深ノ度ヲ異ニスル
 モノアリ即俗曲中其弊害ノ至少ナルハ箏曲トス箏曲
 中ニ於テモ其作愈古キモノハ其弊害愈少キヲ見ル是
 ヲ以テ從來着手セルトコロノ改良ハ箏曲ヲ以テ第一
 着手ト爲セリ是即チ箏曲ハ上流ノ社會ニ行ハル、ノ
 最モ廣クシテ其弊害ノ最モ少ナキヲ以テ其改良ノ一
 日モ猶豫ス可ラズシテ其成果ヲ檢スルノ最モ容易ナ
 ルヲ以テナリ蓋シ箏曲諸曲ヲ審察スルニ箏曲中組歌
 ハ最モ古代ニ屬シ稍純良ナルモノ、如シ故ニ此等ハ
 サラニ考フルトコロアリ姑ク之ヲ措キ第二步ニ譲リ

其普通一般ノモノヲ取リテ之ヲ改良スルヲ第一歩ト
 ス此改良ノ順序ハ先掛員中箏曲ニ熟スルモノ及箏曲
 指南ヲ業トスルモノ等數名ヲシテ無數ノ箏曲中ニ就
 キ曲品好佳ニシテ改良ノ材料トナルベキモノヲ檢出
 撰拔セシメ其報告スルトコロヲ以テ之ヲ定日掛員ノ
 評議ニ付シ其歌詞ノ意匠文義ノ處在曲調ノ善惡旋律
 ノ邪正等ヲ審議討究シ然後之ヲ箏胡弓三味線尺八等
 ニ合セ實地ノ演奏ヲ以テ更ニ反覆討究シ其成歌成曲
 ノ何如ヲ實察シ歌詞ノ鄙猥ニシテ取ル可ラザルノミ
 ナラズ曲質モ到底改良ノ望ナキモノハ此ニ於テ全ク
 廢按ニ屬セリ而シテ其成曲稍可ナルニ似テ一部ノ改
 良ヲ要スルモノハ之ガ改良ヲ處分シ其全部可ナリト
 認ムルモノハ先ツ直チニ其歌詞ノ改製起稿ニ着手セ

リ故ニ歌詞ハ全体ノ改作ニ係ルトイヘル曲調ハ舊作ヲ存スルモノアリ其一部ノ改作ヲ謀ルモアリ己ニシテ其歌稿ノ成ルニ及ンデハ更ニ會議ニ付シ再ビ諸樂器ニ合セ實地演奏ヲ以テ反覆評論ヲ盡シ校正刪訂ヲ加ヘ歌曲協和ノ宜シキヲ得タルモノハ取テ之ヲ衆多試唱ノ方法ニ處シ否ルモノハ再三再四修正ヲ加ヘナホ其宜シキヲ得ザルモノハ更ニ歌稿ヲ屬シテ之ヲ評論討議スルヲマタ故ノ如シ總シテ歌作ハ嫺雅優美ノ徳性ヲ涵養スルノ主意ヲ基ト爲シ併セテ風韻ノ高致ニ務メ曲調ハ卑猥乱野ノ旋法ヲ禁シ清純雅正ナルヲ主トセリ第二ニ着手シタルハ長唄改良是ナリ長唄モ世ニ行ハル、ノ盛ナルモノニシテマタ多少弊害アルヲ免カレズトイヘル俗曲中ニ於テハナホ採ルベキト

コロアルモノニ似タリ是マタ近代ニ降テ益其弊害ヲ極メ愈古キハ愈純良ナルヲ覺ヘリ然リト雖モ長唄ハ元來能狂言ヨリ變出セルモノニテ狂言等ノ幕間ヲ繕ヒ又ハ技能ヲ助ケンカ爲ニ起シタルノモノナレハ時ニ臨ミ變ニ應シテ作出セルモノ多キニ居リマタ隨テ其時々々ノ用ニノミ屬シ敢テ之ヲ重用永存シタルヲ稀ナルヲ以テ其古物ノ今日ニ傳ハラサルハ最モ遺憾ト云フベシ故ニ其曲ヲ得ル太ダ難シトイヘル本掛ニ於テハ汎ク古今ヲ涉獵シテ弊害至少ナルモノヲ索メテ以テ此改良ノ材料ト爲セリ此改良方法モ前述スル如ク本掛員其他此道ニ熟セルモノヲシテ材料ヲ檢出セシメ其報告ヲ以テ之ヲ定日掛員ノ評議ニ付シ以テ之ヲ改良撰定スルヲナホ箏曲改良ノ順序ニ於ケルカ如

シ此改良ハ都テ字句文章ノ改正ハ勿論ナリトイヘヒ
 其呂律ノ施法ニ於テ不正ナルトコロアルハ盡ク之ヲ
 删除シ易フルニ純良ナル旋法ヲ以テシ特ニ其出處撰
 製ノ由來正シキモノヲ取ルヲ定規トセリ凡ソ唱謠ノ
 主眼トスルトコロハ呂律ノ旋法雅正ニシテ心情ヲ養
 ヒ其詞句理義ヲ離レテ自ラ趣味ヲ保チ文章ノ語路流
 暢ニシヨク曲詞調ニ協和スルニアリ故ニ此俗曲改良
 ノ事業ハ獨リ歌詞歌章ヲ改良スルニ止マラスマタ獨
 リ旋律曲調ヲ改良スルニ止マラス數百言ノ歌詞ト數
 十段落ノ曲調トヲ相協和セシメ以テ一曲ヲ完成ス
 ルニ在リ且タトヒ理論上ハヨクコトニ適合スルモ其
 曲質風致ノ何如ニ由テマタ自ラ世ニ行ハル、ト否ト
 ヲ致スモノアリ是此改良ニ於テ言語文字ニ委ヌベカ

ラザル困難ヲ經ル所以ナリ然リトイヘヒ從來ヨリ此
 困難ヲ凌キ已ニ改撰既成ノ分無慮數十曲ノ多キヲ致
 セリ此中數曲ハ既ニ去明治十五年以來音樂取調成績
 報告ノ際等ニ於テ大方ノ公聽ニ供シタルモノアリ且
 改良俗曲ハ其固有ノ國質ヲ失ハシメザル以上ハ西樂
 ノ理ヲ斟酌シ以テ之ニ和聲ヲ付シ歐洲各國普通ノ歌
 曲ト對峙セシメ以テ愈其妙趣ヲ發達シ音樂ノ音樂タ
 ル所以ノ真利正用ヲ大成セシメントス

倍從來着手セル俗曲改良ノ方法ハ先ツ上述スルカ如
 シ因テ是ヨリ該改良諸曲ヲ實施セント欲スル所以ノ
 方法ヲ畧述スベシ蓋シ本掛改良ノ俗曲ハ呂律ノ旋法
 ヲ解剖シテ之ヲ樂譜ニ製シ紙上ニ寫シテ目ニ視ルト
 コロト音聲ニ發シテ耳ニ聞クトコロト彼此一致ニ歸

スル所以ノ方法ヲ設ケ以テ之ヲ教授スル者ノ便ト之
 ナ學習スル者ノ利トヲ謀リ天下普通ノ樂譜法ニ由テ
 迅速習得ノ簡法ヲ立テタリ故ニ相傳相受ノ速ナルマ
 タ前日白文ノ歌書ニ就テ作曲ヲ練習スルノ迂遠徒勞
 ナルノ比ニアラズ今從來内撰ニ係ル改良諸曲ヲ以テ
 裁可ヲ仰キ之ヲ印行ニ付シ斯道適宜ノ教科書ヲ公行
 スルヲ得バ改良諸曲ノ實施上駿功ヲ奏スベキハ掛中
 ニ於テ己ニ之ヲ試施スルノ際ニ徵シテ疑ヲ容レザル
 トコロナリ由是觀之一朝此改良歌曲ヲ公行スルニ至
 ラバ新異ヲ好ム人情ト教育ノ稍進歩セルヨリ致セル
 風潮トニ相投シテ必ズヤ此改良歌曲ノ流行センヲ預
 メ之ヲ卜知スルニ足レリ且此改良歌曲ヲ實施スルノ
 途ニ方テ特ニ其便宜ヲ得タルモノハ本掛ニ出仕シテ

現實此改良ニ從事スル諸員是ナリ此等ハ私ニ門戸ヲ
 張テ俗曲ヲ教授スルヲ専門トスル者ニシテ東京府下
 ハ云ニ及バズ全國ニ於テモ此道ニ於テ頗ル樞要ノ權
 機ヲ握有スル者多キニ居レリ故ニ彼改良諸曲ヲ公行
 スルノ日ニ至ラハ外ハ之ヲ該諸員ノ私門ニ開施シ内
 ハ之ヲ本掛傳習生及東京女子師範學校生徒等ニ施行
 スルヲ始ト爲シ漸次從來音樂ヲ業トセルモノニ傳習
 ナ許スノ途ヲ開キ以テ闔國ニ及ボスノ方法ヲ設ケ之
 ナ實施スルノ計畫ヲ爲サントス愈此實施ヲ公許スル
 事ハ則既成ノ曲數ヲ僅少ニシテ人心ヲ維持スルニ
 足ラズ故ニ今ニシテ此改良ヲ擴充シ靜思審撰ノ材料
 ナ蓄積セザレバ流行騷忙ノ際ニ乘シテ淺日急成ノモ
 ノヲ發行シマタ憾ヲ千歳ノ後ニ遺スナキ能ハズ是此

改良ノ繼續ハ勿論サラニ之ヲ擴充セザルベカラザル所以ナリ然リ而シテ此改良實施大略確定スルニ及ンテハ在來ノ諸曲ニシテ其害毒最甚シクシテ風教ノ妨ヲナスモノ、如キハ嚴令ヲ下シテ之ヲ禁斷スルニ至ルモ可ナルベシ又音曲ヲ業トスル者ノ取締法ヲ設ケ其事業ヲ監督彈察スル良法ヲ制定セバ淫曲ハ益其勢力ヲ失ヒ良曲ハ愈普及シテ音樂ノ局面ヲ鞏新スルニ至ルヲ亦期シテ待ツベキナリ

明治頌撰定ノ事

明治頌ノ撰定ハ始メ國歌ノ資料ヲ撰定スルノ旨趣ニ出デタリ其命ノ下リシハ實ニ明治十五年一月ナリ抑國歌ノ事タル聖世ノ大典ニシテ其與カルトコロ至重至大ナレバ妄リニ斷了スベカラザルモノナルヲ以テ汎ク海外各國々歌及ヒ其史傳等ニ據テ彼此參互深ク之ヲ研究セシニ彼國々歌中ニハ人心ノ向背ヲ決シ邦國ノ禍福ニ與リ億兆ノ幸否治道ノ進退ヲ來スニ至リシモノ尠シトセズ是ヲ以テ先ツ尊王愛國ノ大義ニ基キ汎ク古今ヲ斟酌シ明治聖世ノ隆德ヲ發揚スルヲ以テ主義ト爲シ得ルトコロノ歌按六篇ヲ以テ其三月中之ヲ文部卿ニ呈シ其体裁內定ヲ請ヒシニ果シテ本掛

ノ所見ニ違ハズ右ノ体裁ヲ以テ更ニ一層精選シ速カニ撰定ノ功ヲ竣ヘ稟申スベキノ旨ヲ得タリ是ニ於テ乎國歌資料撰定ノ体裁相決シ更ニ規模ヲ張り上ハ歴代ノ天業ヨリ下ハ勤王愛國ノ偉勳ニ至ルマデ普テ古今ノ故事故實ヲ綜核シ國體ノ在ルトコロヲ研究シ且本邦和歌ノ作法雅俗樂ノ規則及ビ西樂ノ理法ヲ商量シ尊王愛國ノ大義ニ基キ拮据黽勉サラニ得ルトコロノ歌按四篇ヲ以テ次ク四月之ヲ上申シタリキ夫レ國歌ハ上述スル如ク其關係至大至重ノモノナルヲ以テ我邦音樂ノ現情ニアリテハ其資料ヲ撰定スルノ難キヲ殆ト云フベカラズ歌作高キニ勤ムレバ社會一般ニ適シ難キ恐レアリ低キニ着意スレバ野鄙ニ失スルノ患アリ純然タル和風ニ拘泥スレバ外交日新ノ今日

ニ適セザルノ恐アリ妄リニ外風ニ摸スレバ國歌タルノ本体ヲ謬ルノ患アリ歌詞ニ得ルトコロアルモ曲調ニ欠クトコロアリ曲調ニ得ルモ歌詞ニ欠クトコロアリ豈之ヲ難シト云ハザルベケンヤ本按ハ方今ナホ裁定中ニ屬スルヲ以テ目下其何如ヲ開報スル能ハザルハ遺憾ナリト云ベシ茲ニ從來取調タル所ノ歐米諸國ノ國歌及其史傳ノ梗槩ヲ附記スルヲ左ノ如シ

英吉利國々歌「ゴット、セープ、アワー、クローン」語譯

イトモ尊キ我君ヲ、守ラセ玉ヘ大神ヨ、ミ惠深キ我君ハ、千代マセ八千代イマセカシ、神ヨ我君ヲ守ラセ玉ヘ、三軍常ニ勝ヲ得テ、サキハヘユカン、我君ノ、御代萬歳ト祈ルナリ、神ヨ我君ヲ守ラセ玉ヘ、

實ニモ惶キ大神ヨ、怒ラセ玉ヘタ、セ玉ヘ、我大君ニ
 マツロハヌ、其敵ヲバ打散ラシ、タフサセ玉ヘヤ追ハ
 セ玉ヘヤ「ソガ政專亂レ、ヨカシ、ソガ謀事破レヨカシ
 上、我等ハ汝ニ祈ルナリ、神ヨ我等ヲ守ラセ玉ヘ、
 イト、愛タキ御寶ハ我大君ニ惠マセ玉ヘ、ソモ君ガ
 御世ハ八千年ノ、永ク榮エユク春ニ、實ニ愛タケレ、榮
 エユケカシ、榮エユケカシ、我國法ヲ保チ玉ヒテ、千万
 人モ一言ニ、神ヨ我君ヲ守ラセ玉ヘト、歌ハシムルゾ
 有ガタキ、

右史傳

此國歌ノ出處ニ就テハ其說區々ニシテ甚ダ不分明ナ
 リ千八百二十二年發行ノクラーク氏國歌論ニ據レバ
 千六百七十六年ニ於テ既ニ此曲ト同一ナルモノアリ

トイヘモインゲル氏ハ此說ヲ以テ信ズベカラザルモ
 ノト爲セリ而シテイインゲル氏ノ說ニ據レバ此曲ハ英
 王ジョージ第二治世以前ニ決シテ之ナシトイフ則此治
 世以後ハ往々此曲ニ類似スルモノ出タリ「フランクリ
 ン、イス、フレッド、アウエー、ア、チューン」ア、ク、スマス、カロール」ア
 イレ」等ノ如キ是ナリ今此諸曲ノ古書ニ見ヘタル其最
 モ古キモノヲ按スルニ「フランクリン、イス、フレッド、アウ
 ー」ハ千六百六十九年アポロ氏ノ高音胡弓歌曲集ニ見
 ヘ「ア、チューン」ハ彼ノ有名ナルバルセル氏ノ作ニシテ千
 六百九十六年ノ發行ニ係ル同氏ノ遺稿ナル「ハーピス
 「コルド」歌曲集ニ出テ「クリスマスカール」ハ千六百十一
 年ラベンスクロフト氏ノ「メリスマタ」中ニ在リ「アイレ」
 ハブル氏ノ作ニシテ千六百十九年ニ成リシ其撰曲集ノ

ノ寫本中ニ發見セリ然リト雖モ此諸曲中一モ「神ヨ我
 君ヲ守ラセ玉ヘ」ノ語又ハ之ニ類似スルモノアルナシ
 但シブル氏所作ノ「アナーン」ハ第一部ノ六小節ト第二
 部ノ八小節トニ於ケル非凡ナル拍子ノ意匠ニ於テ方
 今ノ「神ヨ我君ヲ守ラセ玉ヘ」ニ髣髴タルトコロアルモ
 ノ、如シ然レモマタ此寫本ニ就テ撰譜ノ体裁ヲ審察
 スルニ曲中往々近代音樂家ノ爲ニ改竄ヲ經タルトコ
 ロナキニシモアラズ而シテ此改竄ノ箇所ハ今一々之
 ナ明示スル能ハズトイヘモ因テ以テソノ更ニ類似ス
 ルヲ致セシ所以ハ明晰ナリトス且此國歌ノ首ノ二小
 節ニ屬スル拍子ノ体裁ハ敢テ通常ニ異ナリトスヘキ
 モノニアラズ他ノ撰曲家トイヘモマタ自然此ノ如キ
 思想ヲ生ズベキハ一般ノ通情ト信ゼリ全体一ノ歌曲

ヲシテ其体裁ヲ以テ此國歌ニ類似セシメンニハ此調
 ニ存スル種々ノ音程ヲ重複セシメバ事足ルベキヲ以
 テナリ其所以ハ此國歌ニ類似スルモノ獨リ英國古來
 ノ歌曲ニアルノミナラズナホ他國ノ歌曲ニ於テモ往
 々之ヲ發見スレバナリ例ヘバスウーデンノ「エン、ガン
 グ、アイ、ブレド、ミグ」デンマークノ「コング、レグチルス、ウエ
 シー」ノ如キハ其表々タルモノトス然リトイヘモ方今
 ノ國歌ハ敢テ此等ノ諸曲ヨリ出デタルモノニアラズ
 シテ、或ハ「リブレロイ」トイヘル古曲ヨリ變出セルモノ
 ナラントノ說モアリ「リブレロイ」ハ蓋シ「チールス」王第
 一及其後嗣スナワード家ノ諸王ヲ讚揚シタル風俗歌
 ニシテ實ニ方今ノ國歌ニ先ツテ世ニ行ハレシモノナ
 リ然リ而シテ此「リブレロイ」ハ「ナハベル」氏ノ古歌集中ニ

ハ「ゴット、セーブ、ザ、キング、オフ、ナールス、フルスト、オフ、ナールス、セコンド、アンド、ゼームス、セコンド」ノ題名ヲ付シマタハリウエル氏ノ「バレット」歌曲集中ニハ之ヲ「エンガランドス、オノーア、アンド、ロンドンス、グロリー」ト名ケ付スルニ千六百六十年五月八日英國々會上下兩院ロンドン府知事、區長府會等ニ於テナールス第二ヲ英吉利國王ト奉戴スル所以ノ大式ヲ以テセリ抑此曲ハ當時全國ニ流行シタルモノニテ第十七世紀ノ音樂家殊ニバルセル氏ノ如キモ最モ之ヲ愛親セシモノト信セリ故ニ方今ノ國歌ノ作ハタトヒ殊更ニ之ヲ摸倣セズトモ知ラス識ラズ其影響ヲ受ケタルハ論ヲ俟タザルベシ且「リブレロイ」ト「ゴット、セーブ、ザ、キング」トニ於ケル小節ノ數ノ不同モマタ敢テ「ゴット、セーブ、ザ、キング」ノ

「リブレロイ」ヨリ出タルニアラザル所以ノ證據トモ爲スベカラザルモノニ似タリ何トナレバ古曲ヨリ新曲ニ變遷シタル歌曲中斯、ル變化ヲ經歷シタルモノアルハ其證據ニ乏シカラズトイヘリ

佛蘭西國々歌「マルセーユ」語譯

汝佛國ノ赤子、ヨクモ心ヲ榮譽ニ留メ、ゲニ大軍ヲ募リタリ、父母ト妻子ノ流涕ヲ忘ルナ、父母ト妻子ノ泣泣ヲ忘ルナ、父母ト妻子ノ流涕ヲ忘ルナ、父母ト妻子ノ哭泣ヲ忘ルナ、無道ノ君ハ汝ノ子孫ヲ亡サン、無道ノ君ハ汝ノ國土ヲ亡サン、太平自由モ絶エンノミ、太平自由モ絶エンノミ、合唱 鐵へ鐵へ勇アル汝、仇打ツ太刀ヲ拔鬪シ、進メ進メ、負ケタラ死ナフト心ヲキメテ、

淫佚放肆ニ耽ケリテモ、飽クヲシラヌ暴君ハ、黄金ト
 權カトニ飢エ渴エ、日光モ大氣モ競賣ニ出シ、日光モ
 大氣モ競賣ニ出シ、人民塗炭ニ苦シムモ、己レ神ヨリ
 高ク居ル、彼モ人ナリ我等モ然リ、我等ヲ惱ス理アラ
 シヤ合唱 鎧ヘヨロヘ勇アル汝、仇ウツ太刀ヲ拔カザ
 シ、進メス、メ、負ケタラ死ナフト心ヲキメテ、
 嗚呼自由ヨ、一旦汝ノ氣ヲ吸フカラハ、世ノ人汝ヲ棄
 テ得ンヤ、囹圄鐵鎖ハイフノモヲロカ、答モ汝ヲ懲シ
 得ズ、答モ汝ヲ懲シ得ズ、國ノ苛政ニ沉ミシヲハ、イト
 モ久シキ年月ナレド、自由ハ我等ガ干戈ナリ、苛政ヲ
 劍ヲ怖レンヤ、苛政ノ劍ヲ怖レンヤ合唱 鎧ヘヨロヘ
 勇アル汝、仇ウツ太刀ヲ拔カザシ、進メス、メ、負タラ
 死ナフト心ヲキメテ、

右史傳

世ニ所謂「マルセーユ」ハ人心ヲ激發セシムル戰歌ニシ
 テ專政君主ノ毎ニ禁ズルトコロナリシガ今ハ即チ佛
 國ノ國歌ト爲リタリ本歌ノ作者ニ係リテハ其說區々
 ニシテ一定セズトイヘモ抑此ノ如キ論題ニ關シ其信
 ナ置クベキモノハ獨リセーオンガーロト氏ノ說アルノ
 ミナリ同氏ハストラスボルグ繫累革命記ニ於テ當時
 ニ屬スル諸家出版ノ新聞紙類ヲ詳説セシガ即チ之ニ
 據レバ本歌ハローゲット、ド、リスリー氏ノ作ニ係リ同氏
 ハ本歌ヲ作りシ頃一武官ニシテマタストラスボルグ
 府知事ノ所持シタル本府有名ノ新聞紙ニ數投書セシ
 者ナルヲ明カニセリ蓋シ本歌公行ノ端緒ヲ按スルニ
 同氏ノ細君ナル者頗ル音楽ニ長スルヨリ此歌ノ秀逸

ナルヲ明斷セルヲ以テ之ヲ樂譜ニ合セ世ニ公行セン
 7ナ其良人ニ説キタリ因テ本歌ハ千七百九十二年四
 月ニ於テライン軍用戰歌ノ名ヲ以テ世ニ公行セルモ
 ノナリ即チ該府知事ノ細君ナルデーリッナ氏ヨリ其友
 人ニ贈リシ一書ヲ觀ルニ文アリ曰ク「屢樂譜ヲ寫スハ
 余ガ耳ヲ政談ニ閉ルノ機會ヲ與ヘリ實ニ方今當地ニ
 於テハ政談ニアラザルモノナン故ニ愚夫ハ一種ノ新
 論題ヲ提出シテ看客諸君ノ思想ヲ慰メント欲シ府民
 報國ノ赤心ヲ包藏セル一歌ヲ得ン7ナ謀リシニ工兵
 隊長ローゲト、ドリスリー氏トイヘルハ詩歌ノ達人ニ
 シテ早クモ一首ヲ詠出シ樂譜ニ合セテ之ヲ投セラレ
 タリ本歌ハ頗ル人心ヲ動感セシメ且新異ノ思想ニ富
 メリ其体裁グラック氏（日耳曼有名ノ音曲作者ノ名）ノ氣性ヲ帶ブルト

コロアリトイヘモ更ニ活潑ニシテ勇氣アリ時々拙宅
 ニ於テ之ヲ試ルニ間ク者嘆賞セザルナシ」ト隊長ロー
 ゲト、ドリスリー氏ハストラスボルグノ現況ト人民ノ
 熱心トニ據テ歌曲ヲ詠出セン7ナ要メラレシモノニ
 テストラスボルグハ一ノ邊塞ニシテ巴理ヨリ陸續新
 聞ノ到着スルト開戦布告ノ出テタルトニ因テ人心ノ
 洶々タルヲ致セシモノト信セリ本府ハ實ニ敵軍ノ衝
 ニ當リ戰野ノ中心ナレバ政談ノ時論トナリシハ勢ヒ
 止ムヲ得ザルニ出テタルモノ歟抑デーリッナ氏ノ新聞
 中ニ絶ヘズ歌曲ヲ登錄セシト隊長ローゲト、ドリスリ
 ー氏ガ政談ニノミ傾倒シタル人心ヲ轉回セシメント
 シテ此新曲ヲ作りシトノ事情ハ實ニ奇異ナル影響ヲ
 生シ遂ニ邦人ノ目途ヲ確立シ之ヲ斷行セシムル所以

ノモノトハナリタリ且此歌ノ先ツ巴理ニ流行スベキ
 ナ左ハナクシテ直チニマルセーユニ行ハレシモマダ
 太ダ奇ナリ是レ疑モナク一ノ軍隊ガ之ヲ唱フテ直ニ
 南方ニ進行セシニ因レリトス巴理ニ於テ始メテ此歌
 ヲ唱ヒシハマルセーユノ革命隊カ本府ニ操込ミシ其
 日ニ在リ本隊ハ即チ此歌曲ヲ奏シ興ニ乗シテ進入シ
 タリ從是已來本歌ハ即チマルセーユ隊進軍歌トシテ
 世ニ知ラル、トトハナレリ此歌一タビ大都ニ入ルヨ
 リ普チク人口ニ繋リ直チニ全國ニ流行セシハ宛カモ
 猛火ノ冬野ヲ走ルガ如クナリキ嘗テ府知事ノ細君モ
 云ヘル如ク非常ノ人心ヲ激發セシムルハ本歌特別ノ
 性質ニシテ巴理ノ人心ヲ激發シ竟ニ世ニ恐ルベキモ
 ノ無キノ猛烈ナル度ニ到ラシメタリ此歌佛國人民ニ

就キカ、ル非常ノ威力アルヲ以テ佛國王政時代中ハ
 反亂ヲ激發スル歌曲トセラレタレバ得テ之ヲ公唱ス
 ル者殆ド稀ナリキ然シテ始メテ此歌ノ反亂ヲ激發ス
 ル者ニアラズトシテ政府ノ公認ヲ經佛國々歌トナリ
 タルハ實ニ千八百七十八年萬國博覽會開場ノ日ニ在
 リキ

リナード、グラント、ホワイト氏ハ其著述ニ係ル萬國々
 歌集ニ於テ萬國々歌中ノ秀逸タル此人心ヲ激發スル
 國歌ノ成リシ所以ヲ細錄セリ今姑ク其說ニ據ルニ本
 歌ハ一點ノ瑕疵ナク句々玉ノ如クニシテ能ク句外ノ
 意義ヲ發達シ僅カニ六ヶ月ニシテ文武百官ハ勿論全
 國ニ流行シテ實ニ戦叫即チ挑戰ノ號叫トナリタリ本
 歌ハ榮譽ヲ賞スルノ外一ノ他意ナク自由ヲ讚スルノ

外一ノ鬼神ニ及バズ本歌ノ作者ナルローゼット、ドリス
 リー氏ハ堂々タル一武官ニシテ且自由ノ主唱者ナリ
 トイヘモマタ非常ニ正義公道ヲ貴重シ立憲王政ヲ推
 保セル者ナリ同氏ハ千七百九十二年ニストラスボル
 グニ在リ本府ノ知事デリーリッナ氏ハ素ヨリ同氏ヲ知ル
 者ナレバ一日ライン軍ニ赴ク義兵六百人ノ首途ニ臨
 ミ唱ハン爲ニ軍歌ノ作ヲ同氏ニ托セリ因テ同氏ハ即
 夜本歌ヲ作り詰且之ヲ知事ニ致セリ蓋シ樂曲ノ作ハ
 始メ歌句ヲ作り後曲譜ヲ作ルモアリ始メ曲譜ヲ作り
 後歌句ヲ作ルモアリ彼此ノ前後ニ一定ノ例則ナシ同
 氏ハ作者ノ通情トシテ始メ此ノ如キ卒爾ノ作ヲ是認
 セズ本歌ノ草稿ヲ知事ニ致セシ際モ是レ畢竟貴下ノ
 要メニ出テタルモ尙甚ダシキ杜撰ナルヲ耻ツルトイ

ヘリ然レモデリーリッナ氏ハ一目シテ其眞義ヲ洞見セリ
 兩氏ハ夫人デリーリッナ氏ト共ニ先ツ立琴ニ由テ之ヲ試
 ミ次ニ戯曲連テ小集シテ之ヲ合奏セシメタリ而シテ
 此歌幾何モナク四方ニ傳播シテ街衢ニ愛唱セラレ、
 ニ至リ頗ル人心ヲ激發シ彼ノストラスボルグヲ出テ
 革命軍ニ赴ントスル義兵六百人ニ超越シ卒ニ九百人
 ノ大衆ヲ致セリ其感動ノ峻烈ナルマタ以テ思フベシ
 後數ヶ月ヲ出ズシテ此歌益南方ニ流行シコトニマル
 セーユ人ノ愛歌ト爲リ此マルセーユ人ニ由テマタ卒
 ニ巴理ニ傳播セリ巴理ノ人民ハ歌ノ題名モ作者モ詠
 作ノ原旨モサラニ知ル者ナクシテタゞニ之ヲ目シテ
 マルセーユ歌ト爲セリ因テ本歌ハ永遠マルセーユト
 シテ世ニ知ラレマタ暴政ヲ一新シタル佛國人民ノ號

叫トシテ無窮ニ傳ルコトハナリタリ本歌ノ作者ハ後
 乍ナ官軍トシテ罰セラレタレバ佛國ヲ脱シアルプス
 ノ山中ニ逃レシガ其骨ヲ無心ニ發行シタル音曲ヲ返
 響ハスウイスルランドノ山巔マデモ其身ニ纏フテ隨從
 セリローゲト、ド、リスリ―氏會國境ノ山砦ニ於テ軍歌
 ナ聞キシカバ一ノ賤シキ導者ニ向ヒ今聞クトコロノ
 汝佛國ノ赤子云云ノ歌ハ何ナリヤト尋テシニ是レマ
 ルセ―ユナリト對ヘタリ同氏ハ嘗テ識ラズ覺ヘズ人
 心ヲ激發シタル凶果ニ罹リシモ是ニ於テ始メテ其所
 作ノ歌ニ國人ガ下ダセシ名ヲ知り得タリトカヤ
 獨逸國々歌來因河戌兵歌語譯
 ライン、ライン、獨國ノライン、流ヲ戌ルハ誰ナリヤ、流
 ナ戌ルハ誰ナリヤ、左様云フ聲ハ雷ノ轟ロク如キ計

リニテ、サカマク浪モ、鳴ル金鼓モ、タミ趣ヲ添フルノ
 ミ合唱 國ノ防禦ハ堅固ナリ、國ノ防禦ハ堅固ナリ、國
 民戌レリ、ラインノ河ヲ、國民戌レリ、ラインノ河ヲ、
 戌兵ハ億萬數ナキモ、胸ハ忠口唯ダ一ツ、敵ユソ來レ
 ト待カケテ、邊塞堅ク備ヘタリ合唱 國ノ防禦ハ堅固
 ナリ、國ノ防禦ハ堅固ナリ、國民戌レリ、ラインノ河ヲ、
 國民戌レリ、ラインノ河ヲ、
 國ノ矢玉ト士卒ノ呼吸ノ竭ヌ其間ハ一人モ、敵ヲ河
 邊ニ寄スベキヤ合唱 國ノ防禦ハ堅固ナリ、國ノ防禦
 ハ堅固ナリ、國民戌レリ、ラインノ河ヲ、國民戌レリ、ラ
 インノ河ヲ、
 響ク叫ビモ流ル、河モ、トモニ應ジテ絶ヘヌ日ノ光
 リニ輝ク國ノ旗、飽マデ流ヲ戌ルベシ合唱 國ノ防禦

ハ堅固ナリ、國ノ防禦ハ堅固ナリ、國民成レリ、ライ
ンノ河ヲ、國民成レリ、ライ
ンノ河ヲ、

日耳曼國々歌日耳曼本國語譯

第一

日耳曼本國ハ何レノ地ナリヤ、ス
ロピア歟、プロシア歟、
ライオンノ葡萄園歟、バル
ナツクノ怒浪ヲ聞ク沿岸歟、
日耳曼本國ハ、サラニ廣大ニシテ、自由ナル地ナルベ
シ合唱 日耳曼本國ハ、サラニ廣大ニシテ、自由ナル地
ナルベシ、

第二

日耳曼本國ハ何レノ地ナリヤ、バ
バリア歟、ストリア
歟、軍功無双ノオーストリア歟、此本國ノ境界ハ、更ニ
廣大無邊ナリ合唱 此本國ノ境界ハ、更ニ廣大無邊ナ

リ、

第三

日耳曼本國ハ何レノ地ナリヤ、ポ
ムラニア歟、ウエスト
フリア歟、瀑波地方歟、ダ
ニエーブ沿岸歟、此本國ノ境界
ハ、サラニ廣大無邊ナリ合唱 此本國ノ境界ハ、サラニ
廣大無邊ナリ、

第四

名ツレヨ大國、日耳曼本國タル大國
ヨ、ダイロルコソ
ハ答ヲ爲ン歟、土地モ四民モ好性質ナリ、汝ハ未ダ本
國ノ境ヲ測定セザルナリ合唱 汝ハ未ダ本國ノ境ヲ
測定セザルナリ、

第五

日耳曼本國ハ何レナリヤ、名
ノレ大國ヨ、日耳曼國語

ヲ用フルトコロト、日耳曼國歌ヲ唱フトコロトハ、是
レソレ所謂本國ナルベシ、是レソレ所謂本國ナルベ
シ」合唱 是レコソ即チ日耳曼ナリ、是レコソ即チ日耳
曼ナリ、

第六

土ニハ天ヨリ冥護ヲ與ヘ、人ニハ天ヨリ權力勇氣ヲ
賦與セル土地ハ、是レミナ日耳曼本國ナリ、我輩何ソ
之ヲ愛護セザルベケンヤ、是レソレ所謂本國ナルベ
シ、是レソレ所謂本國ナルベシ」合唱 是レコソ即チ日
耳曼ナリ、是レコソ即チ日耳曼ナリ、

亞米利加合衆國々歌「ヘール、コロンビア」語譯

賀スベシ、華旗ハ天幸國ナリ、賀スベシ其士ハ天與ノ
武夫ナリ、自由ノ爲ニ彈丸雨注モ冒シタリ、自由ノ爲

ニ彈丸雨注モ冒シタリ、天下太平獨立自主ハ、彈丸雨
注ノ嵐ヲ經シ、其恩賞ニアルゾカシ、堪ヘシ千辛萬苦
ヲ記シ、享シ恩賞果報ヲ謝シ、光ヲ虚空ニ照スベシ」合
唱 自由ノ權ヲ以テ、獨立共和ヲ保護セン、獨立共和ヲ
保護セバ、太平治安ハ求ムベシ、太平治安ハ求ムベシ」
出デヨ愛國義膽ノ士人、防ゲ國家ノ大權大理、攘ヘ大
膽不敵ノ奴ヲ、攘ヘ大膽不敵ノ奴ヲ、國ハ生血ノ獲モ
ノナリ、子孫平和ニ信義ニ據ラハ、天豈萬世ヲ奪ンヤ、
眞理公道区ビヌ中ハ、君臣上下ハナカルベシ」合唱 自
由ノ權ヲ以テ、獨立共和ヲ保護セン、獨立共和ヲ保護
セバ、太平治安ハ求ムベシ、太平治安ハ求ムベシ、
見ルベシ流石ハ大將ナリ、再ビ國ヲ靖ントハ、國ハ波
ウツ岩根ナリ、國ハ波ウツ岩ニシアレド、德望義勇ヲ

具足シテ、天ト人トニ任セタリ、華旗ハ曇レド望ミハ
絶ユレド、心ハ動カヌ磐石ナレバ、死ヲ以テ自由ヲ護
ントハ」合唱自由ノ權ヲ以テ、獨立共和ヲ保護セン、獨
立共和ヲ保護セバ、太平治安ハ求ムベシ、太平治安ハ
求ムベシ

右史傳

本歌ノ曲ハ千八百八十九年ニ於テフヒラデルフィアノ博
士フイロノ作ルトコロニシテ華盛頓即位ノ式ヲ舉ン
爲メ紐約ニ入ルノ際トレントンニ於テ始メテ之ヲ奏
セリ故ニ往時ハ大統領進行曲ノ名アリ本歌ハ後殆ド
十年ニシテ判事ジョセフホブキンソンノ作ルトコロナ
リ千八百四十年ニ於テ本歌ノ紀原ニ係リ其自述スル
トコロアリ左ノ如シ

本歌ハ千七百九十八年ノ作ナリ時ニ本國ハ將ニ佛國
ト干戈ヲ交ヘントスルノ時運ニ際シ國會方ニフヒラデ
ルフヒアニ開會シテ戰和何如ノ大事ヲ議シ且實際發起
シタル敵國ノ暴舉ヲ處セントスルノ日ナリキ抑其所
以ヲ述ベンニ當時英佛ノ間ニ戰爭アリ我合衆國ノ人
民モ爲ニ説ヲ以テ相分レ或ハ以爲ク佛國ニ左袒スル
ハ止ヲ得ザル義務ニシテマタ至當ノ政畧ナリト或ハ
英政ノ實着ニシテ保續センヲ信シ英國ニ與スルヲ
利トセリ加之英佛二國共ニ己ニ我國權ヲ冒シ國人ノ
憤怒ヲ極メタリ然ルニ大統領華盛頓ハ局外中立ヲ主
張スルヨリ益彼ノ論者ニ逆ヘ特ニ佐佛黨ノ不逞ヲ激
發シ一時民衆騷然タリ實ニ建國已來ノ一大事變ナリ
キ適マ府下ニ演スル一隊ノ戲優アリ中ニ一人名ヲフ

ツクストイヘル者アリ天資唱歌ニ長シ將ニ一席ヲ張
 シトセリ是レ余ガ竹馬ノ友ナリ故ニ土曜日ノ午後ヲ
 以テ一日余ヲ訪ヘリ即チ次ク月曜日ハ其出席ノ當日
 ナリキ時ニフツク余ニ謂テ曰ク生ガ演曲ノ日已ニ
 近キニ在リ而ルニナホ一人ノ來リテ棧敷ヲ買フ者ナ
 シ恐ル此回ノ擧ハ利ヲ得ズシテ却テ失敗ヲ取ンコトヲ
 然レモ生モシ大統領進行ノ曲ニ協フ一首ノ愛國歌ヲ
 得バ必然滿場ノ衆ヲ得ベシト蓋シ本曲ハ當時國曲ニ
 シテ戲優社會ノ作者タル者汲々トシテ之ニ協フ一首
 ナ得ンコトヲ維レ勉メシガ百擧ナラズシテ已ニ之ヲ得
 ベカラザルモノト爲シタレバナリ因テ余モ聊カ試ル
 トコロアラント告シカバ翌日午後ニ至リ彼レ再ビ余
 ナ訪ヘリ時ニ本歌ハ已ニ大成シテ稿ヲ脱スルノ榮ヲ

得タリ尋テ明クル月曜日ノ朝ヲ以テ之ヲ廣告セシニ
 果セル哉滿場ノ衆ヲ得連夜聽客群集シテ實ニ立錫ノ
 地ナキヲ致セリ聽客毎夜此歌ヲ感賞シテ止ズ爲ニ複
 奏ヲ促スコト數回ニシテマタミナ合唱ニ其音聲ヲ添ヘ
 タリ加之府民毎夜路頭ニ集結シテ頻リニ之ヲ愛唱セ
 リ其中ニハ往々國會ノ議員モアリシトイヘリ遠近ミ
 ナコ、ニ出デ乍ナ聯邦各部ニ流傳セリ抑作者ノ目的
 ハ彼ノ英佛二國ニ對スル是非曲直ノ末節ヲ去テ國榮
 國權ノ大本ニ向フベキ愛國心ヲ喚發セントスルニア
 リキ然レモ未ダ嘗テ英佛二國ニ及ブノ一句ナク其暴
 擧ニ關スルノ一言ナシ因テ英佛二黨ハ云ニ及バス全
 國諸人ノ愛唱スルトコロトナリタリ是レ即チ本歌ノ
 純然タル愛國心ニ出デ闖邦愛國心ノ返響ヲ得タル所

以ナリ蓋シ歌曲ノ精神一ニ愛國ニ發スルノ然ラシム
ルトコロトイヘモ此ノ如キ非常ノ人望ヲ得シハマダ
以テ作者ノ意外ニ出デ且本曲ノ純價ニ洋溢スルモノ
トイフベシ

魯細亞國々歌語譯

嗚呼全慈全愛ナル上帝ヨ世俗ノ者ハ汝ノ教ヘニ背
キタリ、汝ノ戒メ破リタリ」合唱 烈シキ怒ヲ押鎮メ、免
シ玉ヒテ安全ニ、スゴサセ玉ヘ我神ヨ、
世俗ノ者ハ、危キ時ニ救ハレシ恩人ヲ、謝シテ必ズ忘
レマシ」合唱 烈シキ怒ヲ押鎮メ、免シ玉ヒテ安全ニ、ス
ゴサセ玉ヘ我神ヨ、

阿蘭陀國々歌語譯

國民ヨ、トモニ祝ヒテ歌フベシ、祭司ヨ、御供ヲ捧グベ

シ、山川江河モウタフマニ我等ガ先祖ノ上帝ヲ讚ス
ル歌ヲウタフベシ」合唱 我等ガ先祖ノ上帝ヲ、讚スル
歌ヲウタフベシ、

我々ノ主宰ナル彼ハ即チ上帝ナリ、其爲ストコロハ、
仁慈ニアラザルモノゾナキ、聲ヲ張り揚ゲ喇叭ヲ鳴
ラシ、主ナル耶和華ヲ讚スベシ」合唱 主ナル耶和華ヲ
讚スベシ

澳國々歌「アワー、フハーガーランド」語譯

人民ノ、口ニ出デタル雅頌コソ、愛國心ニ基ケリ、人民
ノ、誠ヲユメタル詞韻コソ、天地モナドカ動カサミラ
ン、忠誠無ニテ表スルハ、歌ニ優レルモノゾナキ、歌ハ
中心ニ透ルナリ」合唱 忠誠無ニテ表スルハ、歌ニ優レ
ルモノゾナキ、歌ハ中心ニ透ルナリ、

嗚呼國ヨ、神モ福祉ヲ與フベシ、歌ハ冥護ヲ祈ルナリ
汝ハ何ゾ洩ルベキヤ、忠信正理ノ大道ハ、子孫ヲ萬世
ニ致スベシ」合唱 忠信正理ノ大道ハ、子孫ヲ萬世ニ致
ス可シ、

輝ケル、國ノ光リヲ見シハ、愛國赤子ノ所願ナリ、眞
理ト名譽ヲ全ウシテ、身ノ一生ヲ終ヘンコソ、愛國赤
子ノ職務ナレ、獨立雄偉ノ國體ヲ、永遠無窮ニ傳ヘテ
ヨ、吾億兆ノ同胞モ、其民タルヲ喜ハン」合唱 獨立雄偉
ノ國體ヲ、永遠無窮ニ傳ヘテヨ、吾億兆ノ同胞モ、其民
タルヲ喜バン

前段説述スルガ如ク英吉利ノ「ゴット、セーブス、アロー、ク
ー」ハ年代未詳ノ古時ニ出テ漸ク今日ニ至テ英國々

歌ト仰カレ佛蘭西ノ「マルセーユ」ハ西紀千七百九十二
年四月ニ出テ千八百七十八年佛京巴理ニ於テ萬國博
覽會開場ノ日ニ至リ始テ佛國々歌ト爲リ亞米利加合
衆國ノ「ヘール、コロンビア」曲ハ千七百八十九年ニ成リ
其歌詞ハ千七百九十八年ニ出テ今日即チ亞米利加合
衆國々歌ト成レリ若シソレ此明治頌中明治聖世ノ大
德ヲ發揚シ愛國ノ士氣ヲ奮興スルニ足ルアリテ他日
我邦ノ國歌ト爲ルアラバ誠トニ鴻業ノ餘光ト云ベシ

大尾